

# 第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画

(素案)

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 近年の国の少子化対策

---

2012（平成24）年、「子ども・子育て関連3法<sup>※1</sup>」が制定され、これに基づき「子ども・子育て支援新制度」が本格施行されました。

子ども・子育て支援新制度では、必要とする全ての家庭が利用できるように支援の量の拡充と、子どもたちがより豊かに育っていけるように支援の質の向上という、支援の量と質の確保を両輪とすることを目的に、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」、「保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善」及び「地域における子ども・子育て支援の充実」の3つを柱として掲げています。また、当初平成26年度までの時限立法であった「次世代育成支援対策推進法」も10年間延長され、「切れ目のない子ども・子育て支援」を行うこととなりました。

子ども・子育て支援新制度の施行以後も、国は子育てを取りまく環境（少子高齢化、女性の就労率の上昇、それに伴う保育ニーズの増加、労働者の長時間労働など）を改善・支援するために、「ニッポン一億総活躍プラン<sup>※2</sup>」（2016（平成28）年～）の策定、「働き方改革実行計画<sup>※3</sup>」（2017（平成29）年～）の策定、「子育て安心プラン<sup>※4</sup>」（2017（平成29）年～）の公表、「新しい経済政策パッケージ<sup>※5</sup>」（2017年（平成29年）～）の策定など、様々な取り組みを始めています。

### ※1）「子ども・子育て3法」

「子ども・子育て支援法」（平成24年法律第65号）、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」（平成24年法律第66号）、「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」（平成24年法律第67号）の3つの法律を指す。

### ※2）「ニッポン一億総活躍プラン」（首相官邸ホームページより）

我が国の構造的な問題である少子高齢化に真正面から挑み、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の「新・三本の矢」の実現を目的とする「一億総活躍社会」の実現に向けて、平成28年6月2日に閣議決定された。

※3)「働き方改革実行計画」(内閣府ホームページより)

「ニッポン一億総活躍プラン」において、一億総活躍社会に向けた最大のチャレンジと位置付けられた働き方改革については、働き方改革の実現を目的とする実行計画の策定等に係る審議に資するため、2016年9月より、内閣総理大臣を議長とする「働き方改革実現会議」が開催された。時間外労働の上限規制の在り方など長時間労働の是正、同一労働同一賃金の実現などによる非正規雇用の処遇改善等をテーマに討議が行われ、2017年3月に「働き方改革実行計画」が取りまとめられた。

※4)「子育て安心プラン」(内閣府ホームページより)

25歳から44歳の女性就業率の上昇や、保育の利用希望の増加が見込まれることから、2018(平成30)年度から2022(平成34)年度末までに女性就業率80%にも対応できる約32万人分の保育の受け皿を整備することを掲げている。

※5)「新しい経済政策パッケージ」(内閣府ホームページより)

少子高齢化という最大の壁に立ち向かうため、政府は2017年12月8日に閣議決定された。「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪としており、このうち、「人づくり革命」については、幼児教育の無償化、待機児童の解消、高等教育の無償化など、2兆円規模の政策を盛り込み、子育て世代、子供たちに大胆に政策資源を投入することで、社会保障制度を全世代型へと改革することとした。

## 2 策定の趣旨

---

平成27年度からスタートした「第一期磐田市子ども・子育て支援事業計画」は平成31年度(令和元年度)をもって計画期間が満了します。第一期計画では、「子育ては家庭から」という考えを第一義としながらも、市全体で「質の高い乳幼児期の教育・保育の総合的な提供」、「保育の量的拡大」、「地域・社会における子育て支援」に向けた施策を展開してきました。そして、「子育てなら磐田」と誰もが実感できるようにしていくため、計画を推進してきました。

今般策定する「第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画」(以下「本計画」という)では、第一期計画での施策・確保方策を継承し、より発展させることで、本市の「切れ目のない子ども・子育て支援」の実施をさらに推進してまいります。本市で子育てする市民の皆様が、安心して子育てできると実感し、本市に住んでよかったとだけいただける施策を、これから一層広い観点を持って、よりきめ細やかに展開してまいります。

### 3 計画の位置づけ

---

#### (1) 計画の根拠

本計画は、子ども・子育て支援法第61条に基づく、市町村子ども・子育て支援事業計画であり、次世代育成支援対策推進法第8条に基づく市町村行動計画、「新・放課後子ども総合プラン」に基づく市町村行動計画としての位置づけも含む計画として策定します。

さらに、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」に基づく「子どもの貧困対策に関する大綱」を勘案し、子どもの貧困対策についても定めます。

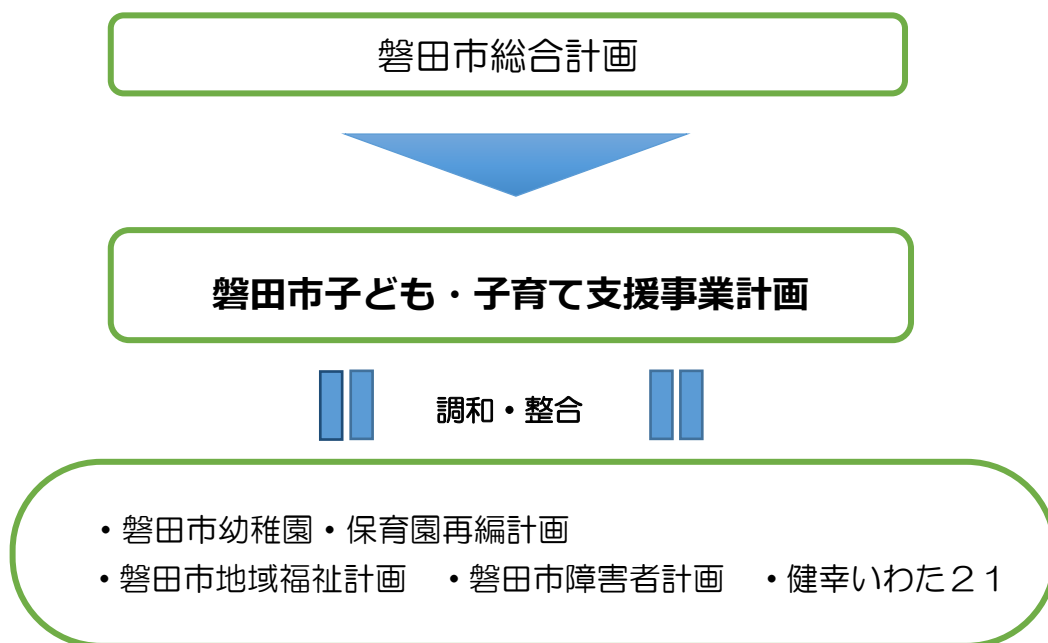
また、安心して子どもを産み、健やかに育てるためには、医療や福祉、教育等の諸施策との連携のもと、切れ目なく母子保健サービスが提供されることが重要であると考えます。本事業計画においては、「母子保健計画」を重要な柱の一つとして位置づけるとともに、母子保健の視点から必要と考える具体的な事業を計画全体に組み入れています。

#### (2) 関連する計画

本計画は、市のまちづくりの総合的指針である「磐田市総合計画」を上位計画とし、子ども・子育て支援の視点で具体化する分野別計画であり、その他関連する分野別計画との調和と整合性を図り策定するもので、保健、医療、福祉、教育、生活環境、就労環境（ワークライフバランス）、地域づくり等のさまざまな分野にわたり、総合的な展開を図っていきます。

#### 関連計画との関係

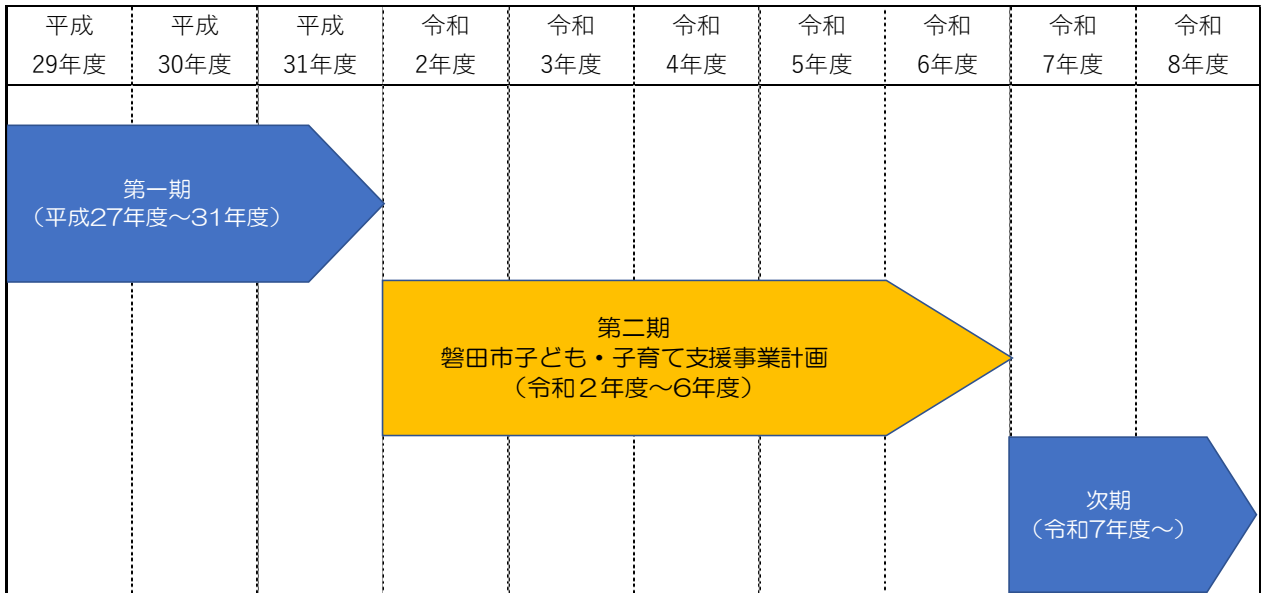
---



### (3) 計画の期間

本事業計画は、子ども・子育て支援法第 60 条に基づいて定められた基本指針に即し、令和 2 年度を初年度とし、令和 6 年度までの 5 年間で第 2 期の計画期間とします。

ただし、具体的な事業内容は、社会情勢や磐田市の子どもや子育て家庭を取り巻く状況に応じて見直しを行います。



# 第2章 磐田市の現状と課題

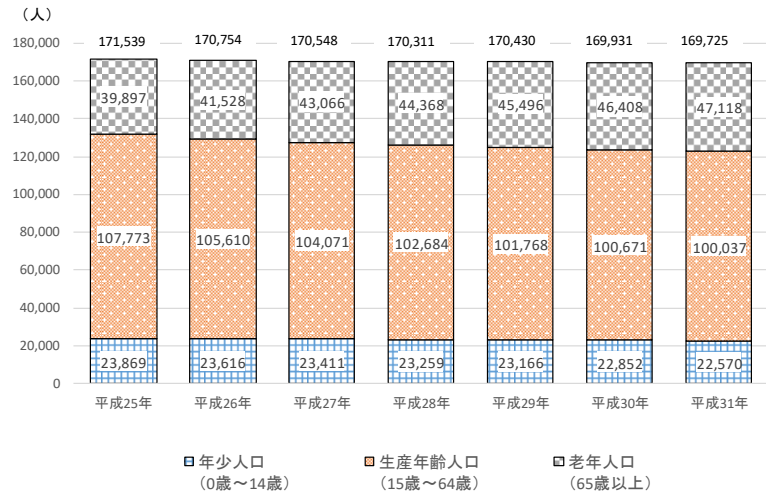
## 1 磐田市の現状

(1) 本市における人口の状況

① 人口全体の推移（人口の推移、年齢3区分別人口割合、人口ピラミッド、自然動態、社会動態）

【図1】人口の推移

本市の人口は平成25年以降減少傾向が続き、平成30年には169,931人と17万人を下回り、平成31年には169,725人となっています。



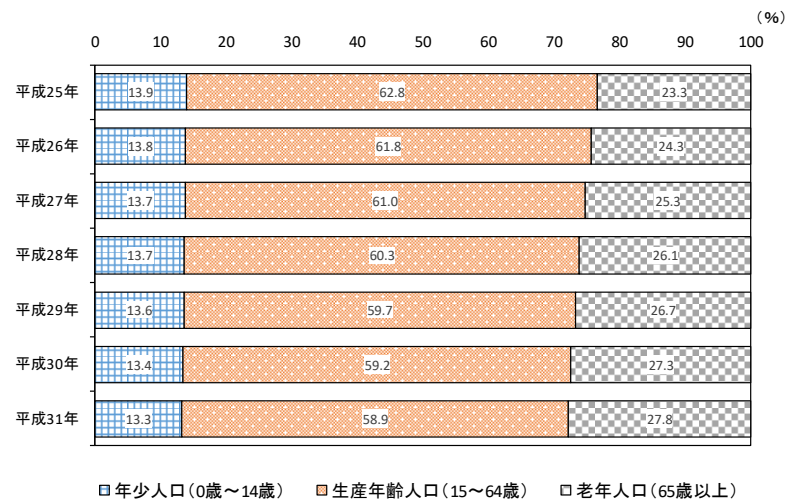
【資料】住民基本台帳（各年3月30日現在）

【図2-1】年齢3区分別の人口割合の推移

本市の年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（0歳～14歳）の割合は年々減少しており、平成31年13.3%となっています。

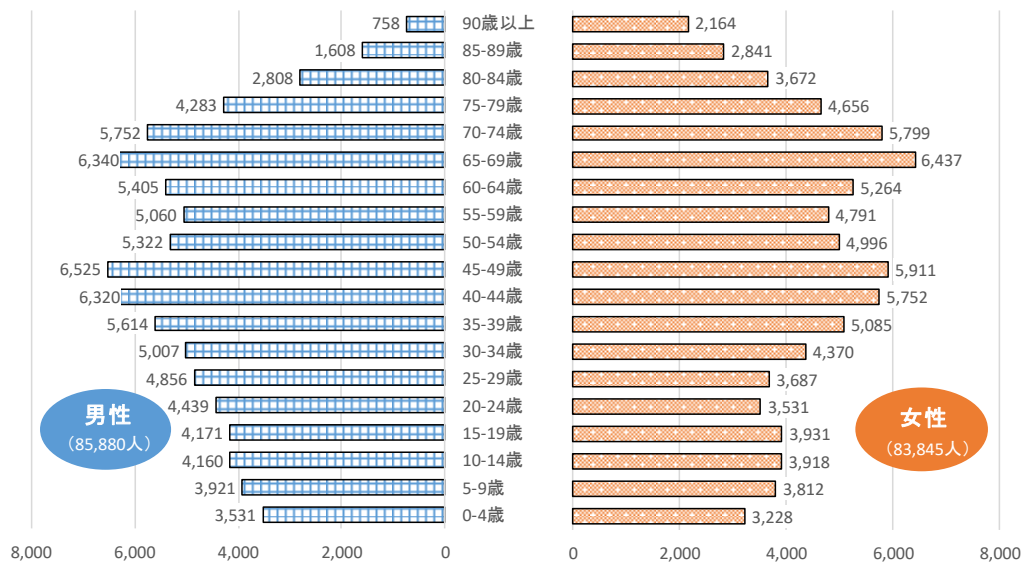
生産年齢人口（15歳～64歳）の割合は平成25年以降減少傾向にあり、平成31年は58.9%となっています。

老年人口（65歳以上）の割合は、平成25年以降増加傾向にあり平成31年は27.8%となっています。



【資料】住民基本台帳（各年3月30日現在）

【図2-2】人口ピラミッド



【資料】住民基本台帳（平成31年3月30日現在）

本市の人口ピラミッドは「つぼ型」となっています。<sup>※1</sup>

5歳階級別人口を見ると、男性は45-49歳の人口が最も多く、次いで65-69歳の人口が多くなっています。女性は65-69歳の人口が最も多く、45-49歳の人口が多くなっています。男女ともに、65-69歳のいわゆる「団塊の世代」と、第二次ベビーブームで団塊の世代から生まれた子どもたちである「団塊ジュニア世代」の人口が多くなっています。

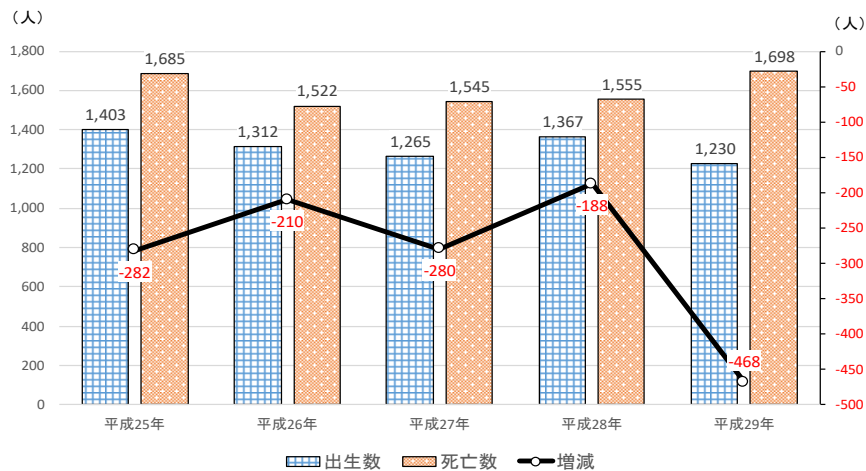
一方、20歳未満の人口の中で、0-4歳児の人口が最も少なくなっており、少子化が進んでいることがわかります。

※1) 人口ピラミッドとは、人口の男女別・年齢別構成を比較する場合に用いられるもので、0歳を基底にし、順次高年齢を上からピラミッドのように積上げたグラフのことである。

人口ピラミッドはその形によって「富士山型」、「つりがね型」、「つぼ型」などの種類がある。

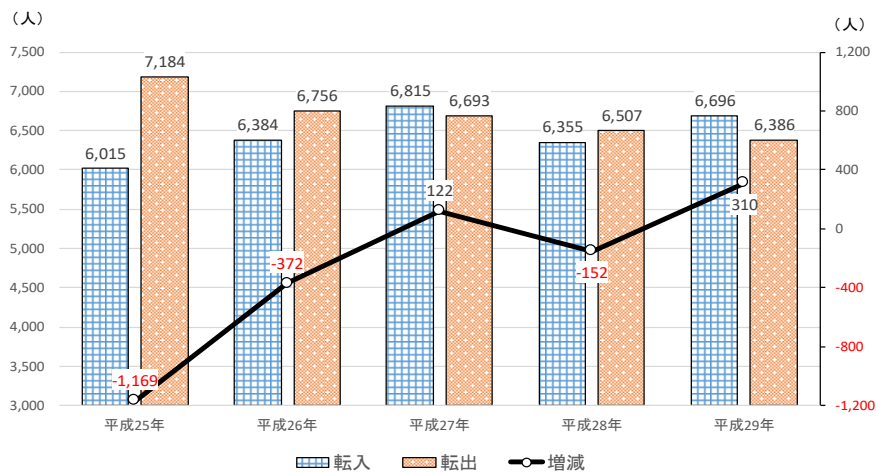
人口ピラミッドの「つぼ型」とは、高年齢層の割合が高く、低年齢層の割合が低い形の事で、少子高齢化の状態を表しており、少産少死で将来人口が減少していくことが予想される。

【図3-1】自然動態



【資料】磐田市統計書 平成30年版

【図3-2】社会動態



【資料】磐田市統計書 平成30年版

自然動態は死亡数が出生数を上回る「自然減」の傾向が続いており、平成29年は出生数が1,230人、死亡数が1,698人と468人死亡数が上回っています。

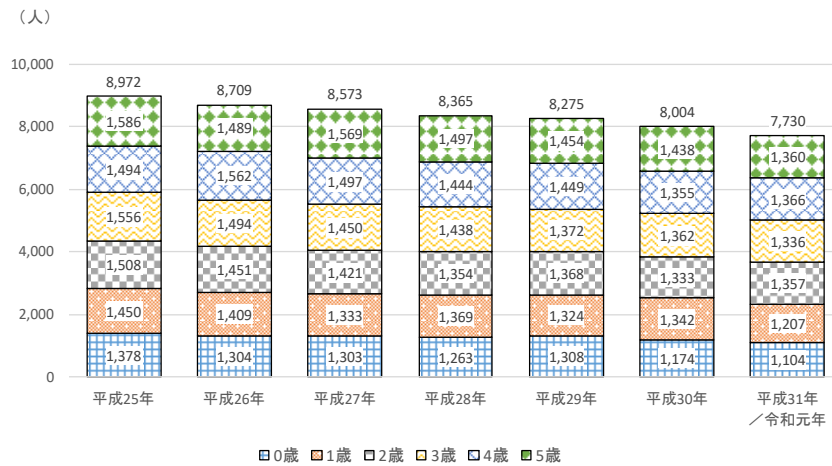
社会動態は平成25年では1,169人の社会減でしたが、平成29年では転入6,696人、転出6,386人と310人の社会増となっています。

自然減が社会増を上回っているため、人口が減少しています。



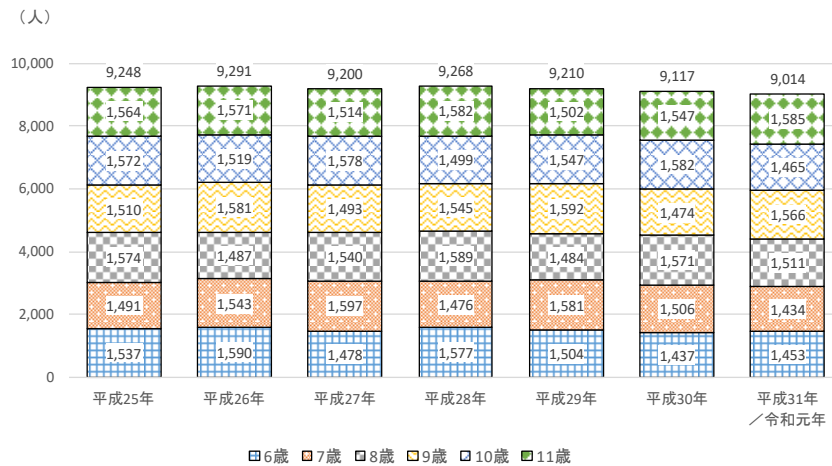
② 児童人口の推移（0歳～5歳人口の推移、6歳～11歳人口の推移）

【図4-1】0歳～5歳人口年齢別推移



【資料】住民基本台帳（各年3月30日現在）

【図4-2】6歳～11歳人口年齢別推移



【資料】住民基本台帳（各年3月30日現在）

0歳～5歳の人口の推移は、平成25年以降減少を続けており、平成25年では8,972人でしたが、平成31年／令和元年では7,730人となっています。

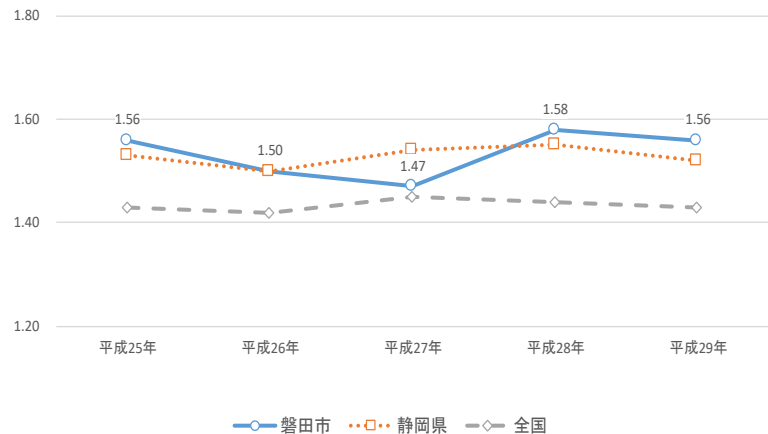
特に0歳児の人口が平成29年から平成30年にかけて134人と大きく減少しています。

6歳～11歳の人口の推移は、平成25年から平成29年にかけて増減を繰り返しながらも9,200人台の横ばいで推移してきましたが、平成29年以降は減少傾向にあり、平成31年／令和元年では9,014人となっています。

### ③ 合計特殊出生率の推移

【図5】合計特殊出生率の推移

磐田市の合計特殊出生率は、平成26年と平成27年を除いて全国・静岡県を上回っており、平成29年には静岡県と比較して0.04ポイント、全国と比較して0.13ポイント上回り、1.56となっています。



	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
磐田市	1.56	1.50	1.47	1.58	1.56
静岡県	1.53	1.50	1.54	1.55	1.52
全国	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

【資料】厚生労働省 「人口動態統計」(全国、静岡県) ※平成25年～平成29年の磐田市の合計特殊出生率については、磐田市の試算による

## (2) 結婚と出産の状況

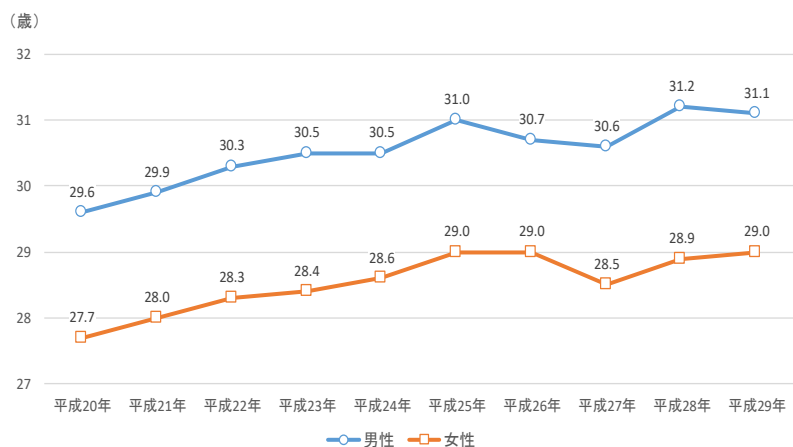
### ①初婚の平均年齢

【図6】男女別初婚の平均年齢の推移

平成20年から平成29年までの過去10年間の初婚の平均年齢を見ると、男女ともに初婚の平均年齢は上昇傾向にあります。

男性の平均初婚年齢は平成20年では29.6歳でしたが、平成29年では31.1歳と1.5歳上昇しています。

女性の平均初婚年齢は平成20年では27.7歳でしたが、平成29年では29.0歳と1.3歳上昇しています。

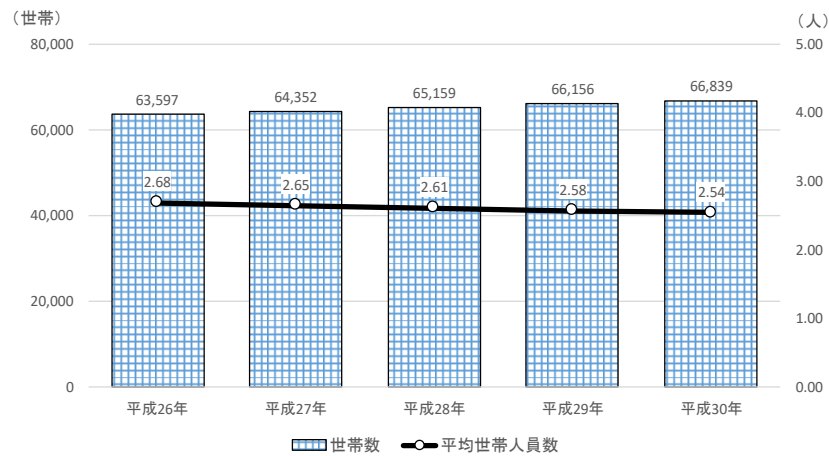


【資料】静岡県人口動態統計

### (3) 家庭の状況（世帯数と平均世帯人員の推移、ひとり親世帯の状況、世帯構成比の推移）

#### ① 世帯数と世帯人員

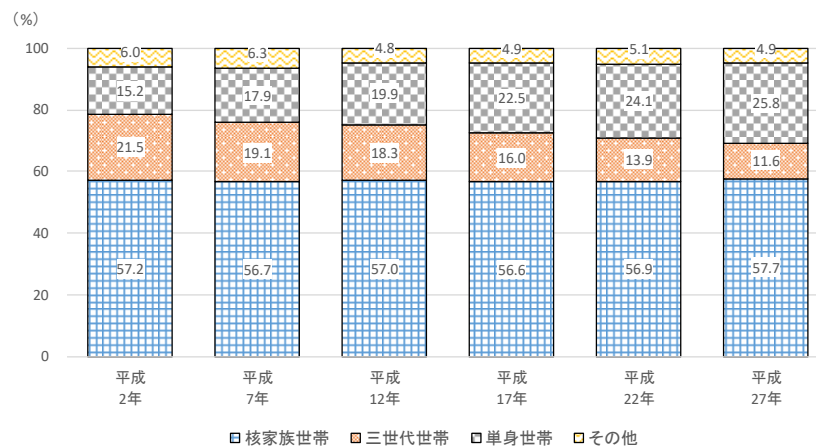
【図7】世帯数と平均世帯人員の推移



【資料】磐田市統計書 平成30年版  
(各年3月30日現在)

#### ② 世帯構成比

【図8】世帯構成比の推移



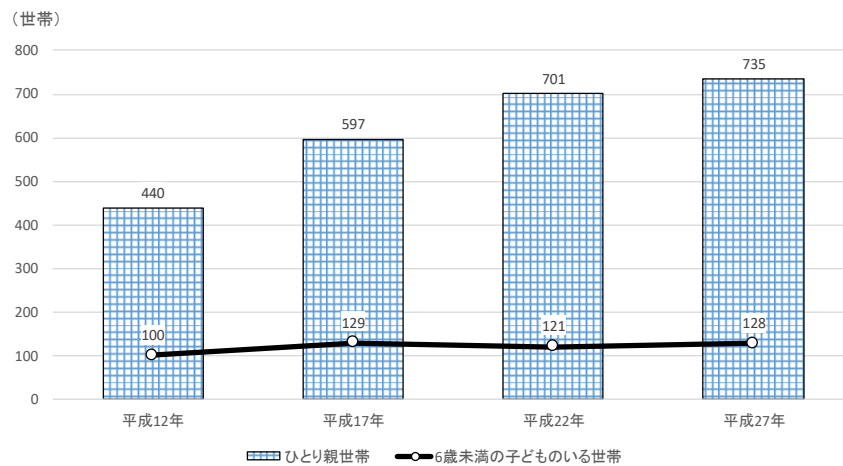
【資料】国勢調査

世帯数は人口の減少傾向に対して年々増加しており、平成30年は66,839世帯となっています。一方で世帯あたりの平均人数は平成25年以降減少傾向にあり、平成30年は2.54人となっています。

世帯構成比について、核家族世帯の割合は平成2年以降57%前後で推移しており、平成27年では57.7%となっています。一方で単身世帯の割合は平成2年以降増加傾向にあり、平成27年では25.8%となっています。

### ③ ひとり親世帯の状況

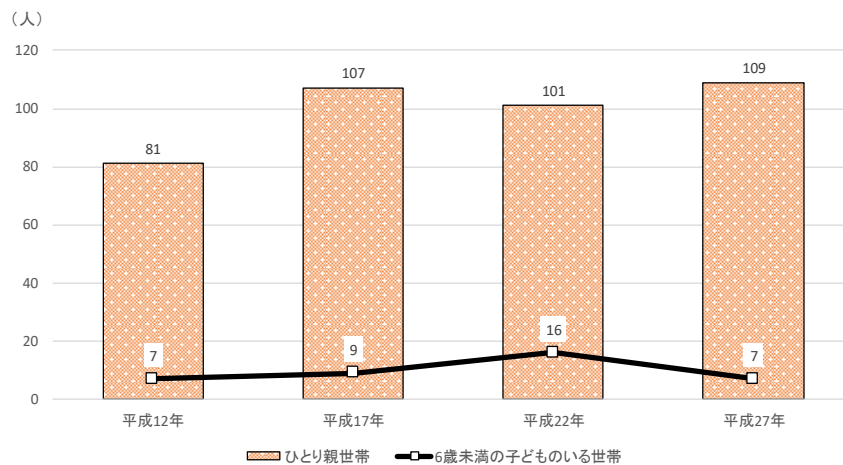
【図9-1】母子家庭世帯の状況



【資料】国勢調査

※平成12年は旧磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村の合計

【図9-2】父子家庭世帯の状況



【資料】国勢調査

※平成12年は旧磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村の合計

ひとり親世帯の状況について、母子家庭は増加傾向にあり、平成12年では母子家庭数は440世帯でしたが、平成27年では735世帯となっています。

また、母子家庭世帯のうち6歳未満の子どものいる世帯は、平成12年では100世帯でしたが、平成27年で128世帯となっています。

父子家庭も母子家庭と同様に増加傾向にあり、平成12年では父子家庭数は81世帯でしたが、平成27年では109世帯となっています。

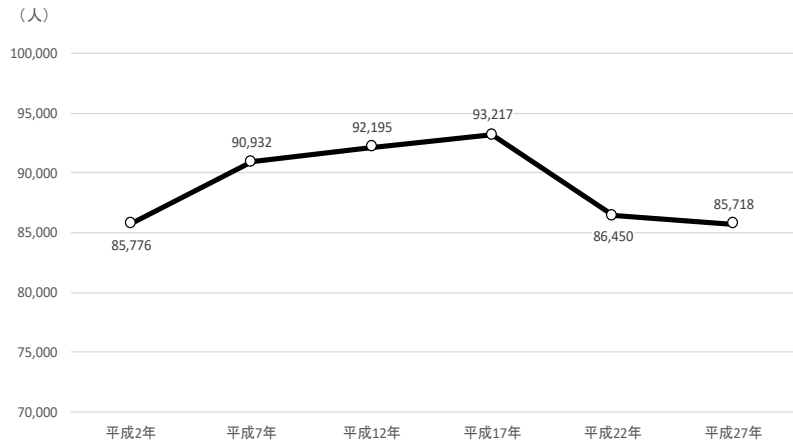
また、父子家庭世帯のうち6歳未満の子どものいる世帯は、平成27年で7世帯となっています。

(4) 就業の状況（就業人口（15歳以上）の推移、産業別就業人口構成比の推移、女性の年齢別就業率）

①-1 就業人口

【図 10-1】 就業人口（15歳以上）の推移

本市の就業人口は、平成2年から平成17年までは増加傾向にあり、平成17年には93,217となりましたが、その後は減少傾向に転じ、平成27年には85,718人となっています。



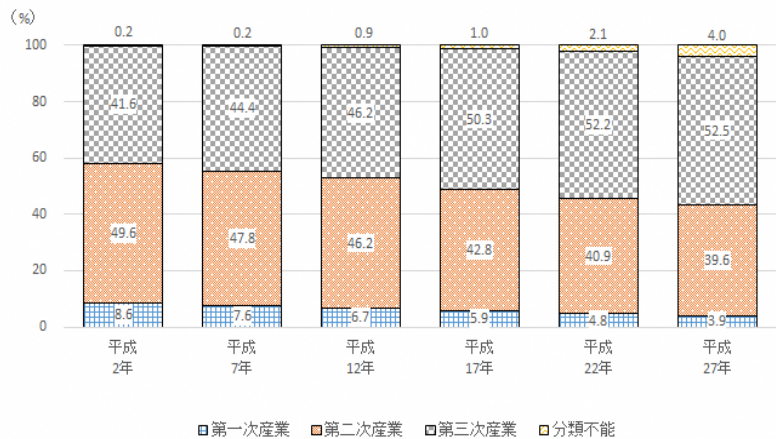
【資料】 国勢調査

※平成12年は旧磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村の合計

①-2 産業別就業人口構成比の推移

【図 10-2】 産業別就業人口構成比の推移

産業別就業人口構成比の推移について、第一次産業と第二次産業の割合は年々減少しており、第一次産業の割合は平成2年では8.6%でしたが、平成27年では3.9%となっており、また第二次産業の割合は平成2年では49.6%でしたが、平成27年では39.6%となっています。



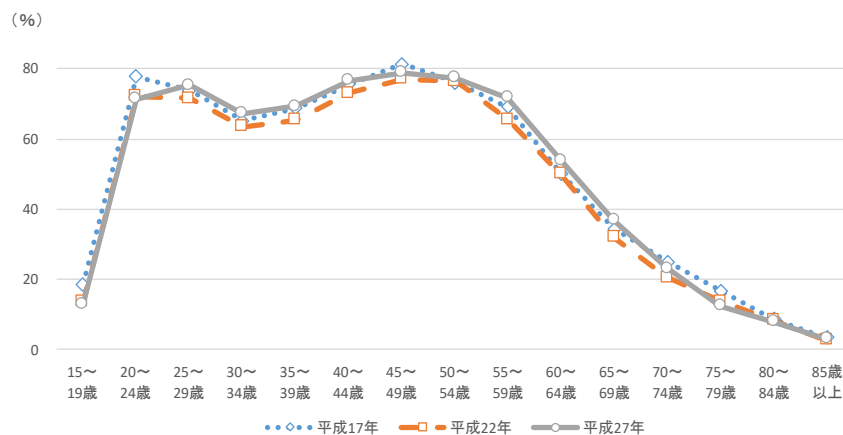
【資料】 国勢調査

※平成12年は旧磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村の合計

一方で第三次産業の割合は年々増加しており、平成2年では41.6%でしたが平成27年では52.5%となっており全体の5割を超えています。

## ②-1 女性の労働力状況（磐田市）

【図 11-1】女性の労働力状況（磐田市）

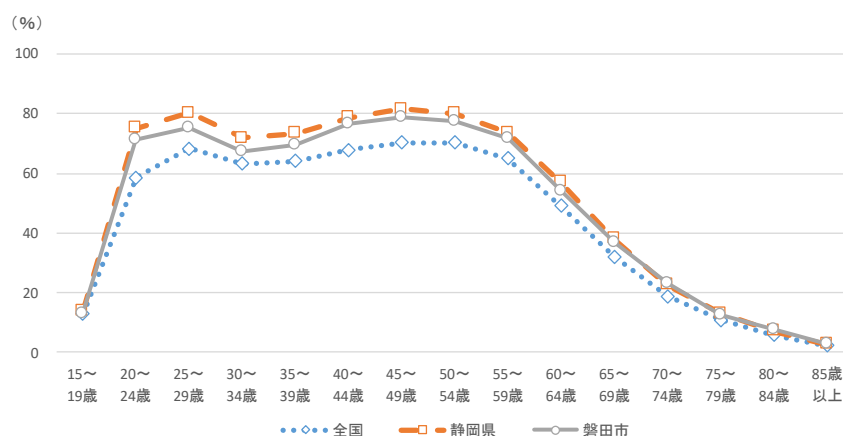


【資料】国勢調査

磐田市の女性の労働力率について、20～29歳の労働力率が高く、30～39歳で労働力率が下がり、40歳以降で再び労働力率が上がるといういわゆる「M字カーブ」の形になっています。平成17年と平成27年を比べると、20～24歳の女性の労働力率は平成17年の方が高くなっていますが、25～44歳の女性の労働力率は平成27年の方が高くなっています。

## ②-2 女性の労働力状況（平成27年全国、静岡県比較）

【図 11-2】女性の労働力状況（平成27年全国、静岡県比較）



【資料】国勢調査

平成27年の全国、静岡県、磐田市の女性の労働力率を見ると、「M字カーブ」の形になっていますが、磐田市は全国よりも女性の労働力率が高い一方、静岡県の割合よりは低くなっています。

## 2 現状から見える磐田市の課題

---

- ①核家族、ひとり親家庭、共働き家庭の増加等から、保育ニーズが増加しています。これに対し、保育の提供体制は十分ではなく、早急に保育の提供量の拡充を進めていく必要があります。
- ②公立幼稚園では定員に満たない園がある一方で、希望者が定員を上回っている園もあります。教育の提供状況で地域によるアンバランスが生じていることから、提供区域の見直しや利用調整など、具体的な対策を考えていく必要があります。
- ③子育て支援については、子育て支援センターや出前子育て支援センター、ファミリーサポートセンターなどで年々利用者が増加していることから、潜在している利用者ニーズは現在の利用者数をはるかに上回っていることが考えられます。広報活動を含め、支援体制の一層の拡充に努めていく必要があります。
- ④都市化や少子化が進んでいること、就労人口の増加等に起因し、地域においては人間関係が希薄化するとともに、子どもたちの体験を通して成長していく機会も減少しています。地域における子育て支援を一層充実させていくことが必要です。
- ⑤男性、女性とも初婚年齢が高くなり、それに伴って、第1子の出産年齢も高くなっています。若者の結婚や出産、子どもを育てることへの意識を変えていく必要があります。
- ⑥安全・安心な妊娠・出産・子育てに繋げていくために、思春期から、将来に向けての意識付けをしていく必要があります。
- ⑦出産や子育てに不安を抱えている妊婦が多く見られます。医療機関等と連携しながら、安心して出産できるように支援していく必要があります。
- ⑧育児に関する情報量は非常に多くなっています。子どもの健全な発達・発育を促すために必要な情報が得やすい体制を整えていく必要があります。
- ⑨子どもの発達に関する相談が増えています。保護者の育児に関する悩みに寄り添った支援を行う必要があります。

## 第3章 基本構想

### 1 基本目標

「磐田市子ども・子育て支援事業計画」は、子どもたちを大切に育てるとともに、子育てにより豊かな生活を実現させるため、全ての市民が主体となって実行していくものです。子育てを通して全ての市民がつながっていくことが、この計画を実現させる上で最も力強い推進力となり、同時にこの計画の到達点でもあると考えます。

私たちは、子どもたち一人一人が、温もりに満ちた豊かな環境の中でのびのびと育ち、夢や希望を叶えることができるまちをつくっていくために次の目標を定めます。

**みんなの手で、  
磐田の未来を開く子育てのまちを創ります**

**人と人がつながる子育てのまち**

**笑顔かがやく子育てのまち**

**未来に向かう子育てのまち**



## 2 基本的な考え方

前項に掲げた目標は、子育て支援を単に「子育て家庭を支えるための施策」としてとらえるのではなく、「子育て」を柱として、これからの磐田のまちをつくっていかうという方向を示しています。この方向をしっかりと見据え、以下の「子育て」に込めた考え方を行動計画に反映させます。

### 人と人がつながる子育てのまち

子どもの健やかな成長を見守り、保護者を孤立させないよう、地域で支えていくことが必要です。子どもは、温かな気持ちを肌で感じることができる環境の中でこそ、のびのびと成長していくことができます。地域での日常的な支え合いは、まさにその温かさを強く感じさせてくれるものであり、また、保護者自身もその中で子育ての力を蓄えていくことができます。子育てには、人々の気持ちがつながった地域の力が不可欠です。

また、地域をあげて子育てを応援することで、その地域は自然と活気が満ちてきます。子育てを通じて多くの人がつながることは、地域全体の豊かな生活を実現する手段でもあります。

### 笑顔かがやく子育てのまち

子どもは、一人一人がそれぞれ大きな可能性をもっています。また、それぞれ成長の仕方は違います。乳幼児期において、個性や成長する姿を大切に見守り、可能性を最大限に引き出すことで、その子の生きる力の基盤を作ります。そのためには、多くの人の子育ての知恵と知識で子どもたちの成長を支え、笑顔を一層輝かせるようにしなくてはなりません。

また、子どもたちの笑顔には、地域・社会を明るく照らす力があります。そして、一人一人を大切に育てるという意識が市民に広く浸透することにより、人に優しい豊かなまちづくりが実現します。「子ども・子育て支援」は、子どもの笑顔を輝かせるだけでなく、その地域に住む全ての人の笑顔を生み出していくものです。

### 未来に向かう子育てのまち

子どもを育てることは、自分自身の成長にもつながることであり、豊かな人生を築くための基盤にもなることです。若者が、今以上に「結婚」、「出産」、「子育て」に希望をもてる社会にしていくことが大切です。そのためには、家庭、地域、行政、学校、園、市民活動団体、企業等が互いの立場を生かしながら連携し、「子育てのまち」と呼ぶにふさわしい環境を整えていくことが必要不可欠です。少子化問題が顕在化している今こそ、次世代を輝かせることをそれぞれの立場で考え、未来のために多くの知恵を出し合っていくことが必要です。そして、思春期を迎えた子どもたち、また、結婚前の若い世代の人々が、将来の希望として出産や子育てを意識していけるようになったとき、未来に向かう力強い磐田の姿を思い描くことができます。

### 3 子育てのまち行動指針

「子ども・子育て支援」の推進にあたっては、すべての子どもと、その子どもを取り巻く地域社会を含めた取り組みが求められます。

本事業計画では、目標に込めた基本的な考え方を踏まえ、妊娠期を含めた乳児期から思春期までの子どもの育ちを支えるため、7つの行動指針を設定し総合的に施策を展開していきます。

#### 人と人がつながる子育てのまち

##### 1 乳幼児期における質の高い教育・保育を提供するための体制づくり

「磐田市幼稚園・保育園再編計画」に基づき、就学前の教育・保育を一体的に提供する体制を整備し、多様なニーズに対応していきます。

##### 2 家庭、地域、関係機関が連携した子育て支援の体制づくり

家庭、地域、関係機関の連携が図られた子育て支援の体制を整備し、安心して子育てができるようにします。

#### 笑顔かがやく子育てのまち

##### 3 母親と子どもの健康保持増進のための支援の充実（母子保健計画）

妊娠期から乳幼児期までの母子の健康保持増進及び乳幼児、児童の健やかな成長のために、愛着形成と生活リズムの向上を推進し母子保健の充実を図ります。

また、関係機関との連携体制を強化し、妊娠期から乳幼児期までの切れ目ない支援体制を構築します。

##### 4 特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の充実

すべての子どもが、自らの権利が保障され個性やよさを伸ばしていけるようにするために、個に応じた必要かつ適切な支援を行います。

## 未来に向かう子育てのまち

### 5 健やかな成長を目指す乳幼児期から中学校までの保育・教育の充実

社会において自立的に生きる基礎を培うために、学校、園、地域が連携し、子どもの豊かで健全な心身と確かな学力を育てる質の高い保育・教育を実践します。

### 6 子育てに適した、人に優しく温もりのあるまちを創るための環境の改善・整備

安心して子育てができる、人に優しく温もりのあるまちにするために、道路・交通環境、地域環境、防犯体制等の改善・整備に努めます。

### 7 子育てに向き合うことができる就労環境及び家庭生活の実現

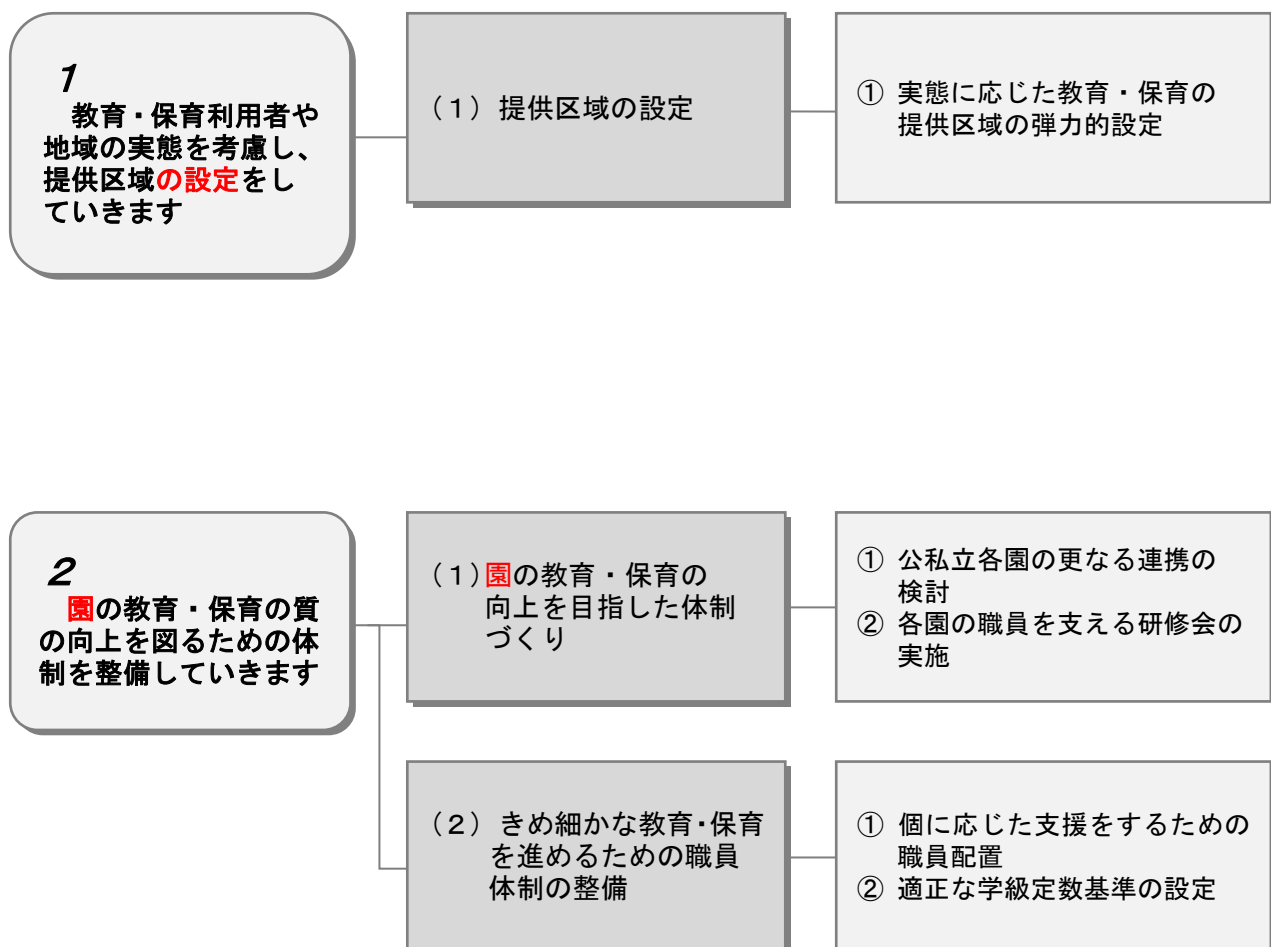
男性も女性も子育てに向き合えるようにするため、仕事と家庭生活を両立できる就労環境の実現を企業と家庭に働きかけていきます。

## 4 行動計画の体系

行動指針に沿って行動目標を定め、各事業を推進します。

### 行動指針 1 乳幼児期における質の高い教育・保育を提供するための体制づくり

「磐田市幼稚園・保育園再編計画」に**基づき**、就学前の教育・保育を**総合的**に提供する体制を整備し、多様なニーズに対応していきます。



### 3

既存施設の再編・事業拡大及び新規事業による提供量の拡大を進めていきます

(1) 公立幼稚園・認定  
こども園における  
教育・保育の充実

- ① 預かり保育の実施
- ② 認定こども園への移行の検討

(2) 私立幼稚園・認定  
こども園における  
教育・保育の充実

- ① 私立幼稚園・認定こども園の連携と情報共有
- ② 私立幼稚園の認定こども園への移行の支援

(3) 公私立保育園・認定  
こども園における  
教育・保育の充実

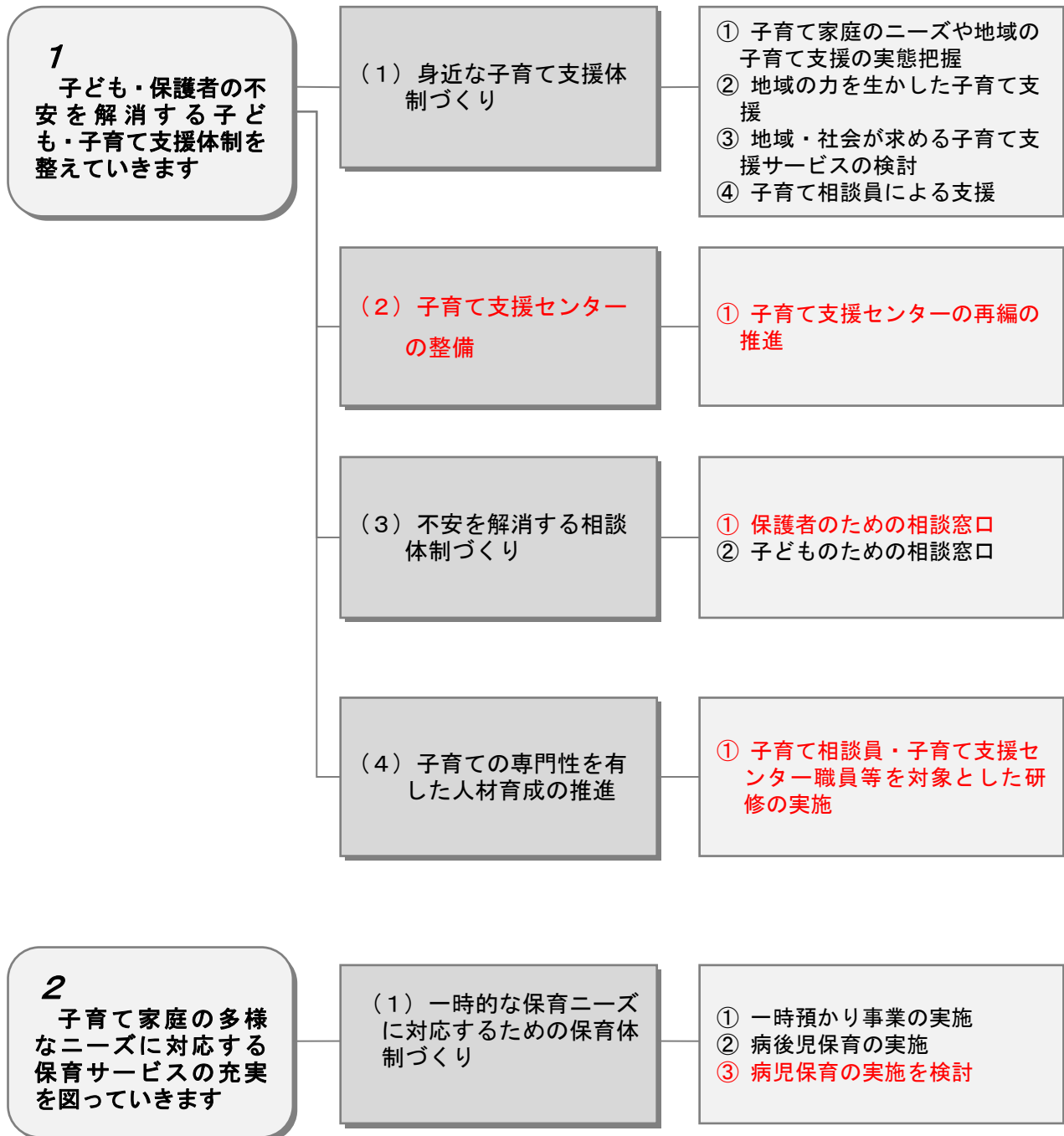
- ① 公私立保育園における施設の整備・拡充
- ② 公私立保育園の認定こども園移行の検討・支援
- ③ 延長保育の実施

(4) 新規事業による保育  
の供給量の拡大

- ① 認可外保育園の特定教育・保育施設または特定地域型保育事業への移行支援
- ② 民間事業者の参入の促進

## 行動指針 2 家庭、地域、関係機関が連携した子育て支援の体制づくり

家庭、地域、関係機関の連携が図られた子育て支援の体制を整備し、安心して子育てができるようにします。



### 3

小学生が、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるように「放課後子ども総合プラン」を推進していきます

(1) 放課後児童クラブの整備

- ① 利用者ニーズに対応した体制づくり
- ② 支援員の専門性及び質の向上のための取り組み
- ③ 放課後子供教室との一体的な取り組み
- ④ 小学校の余裕教室等の活用
- ⑤ 開所時間延長の検討
- ⑥ 放課後児童クラブの役割の向上

(2) 放課後子供教室の整備

- ① 放課後子供教室の拡充
- ② 放課後児童クラブとの連携
- ③ 指導員の資質向上を図る研修

### 4

家庭、地域、関係機関、子育てサークル等が連携した子育て及び教育の支援ネットワークを作っていきます

(1) 子育て家庭をつなげる相互支援体制づくり

- ① 子育て交流活動への支援
- ② ファミリーサポートセンター事業
- ③ 子育て支援センターによる交流活動への支援

### 5

子育ての知識・技能を多くの人々が共有できるようにしていきます

(1) 子育てに必要な知識・技能の啓発

- ① 親支援講座の開催
- ② 健康診断時等における啓発活動

## 6

必要とする子育て支援情報を子育て家庭・地域に届けていきます

(1) 広く市民に届けるための情報提供手段の充実

- ① 子育て応援サイト・子育てアプリによる情報提供
- ② 情報誌・リーフレットによる情報提供

(2) 子育て家庭に届けるための情報提供手段の充実

- ① 相談窓口による情報提供
- ② 訪問等による情報提供

## 7

経済的な支援により、子育て家庭の経済的負担の軽減を図っていきます

(1) 子どもを守り育てる手当・助成の整備

- ① こども医療費の助成
- ② 児童手当の支給
- ③ 未熟児養育医療費の助成
- ④ 就学援助費の支給
- ⑤ 中学生スタートアップ応援事業
- ⑥ 実費徴収に係る補足給付を行う事業
- ⑦ 学習チャレンジ事業

(2) ひとり親家庭を支える支援体制の整備

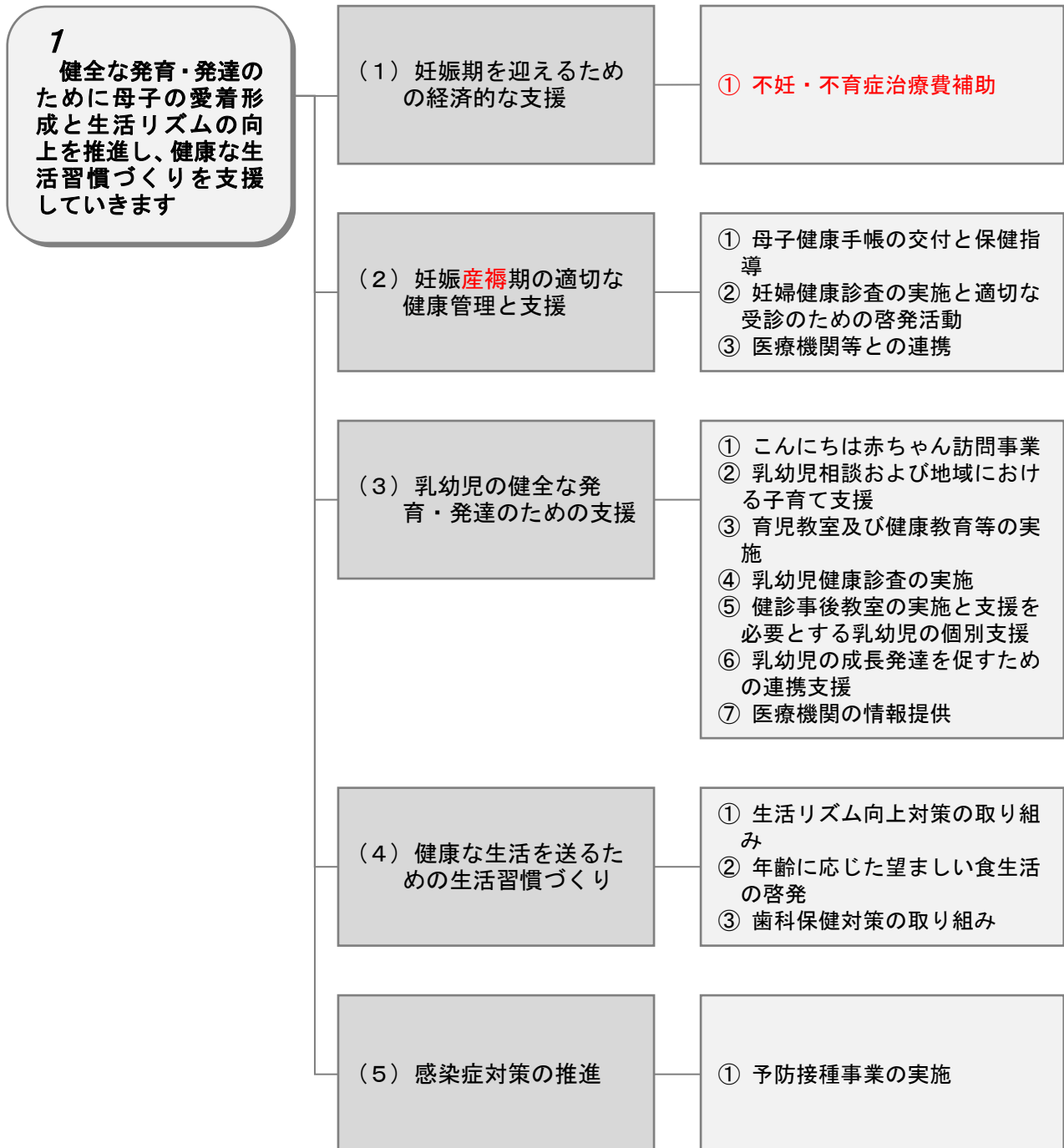
- ① 母子家庭等医療費の助成
- ② 児童扶養手当の支給
- ③ 母子家庭等自立支援給付金の支給
- ④ ひとり親家庭子育てサポート事業



## 行動指針 3 母親と子どもの健康保持増進のための支援の充実（母子保健計画）

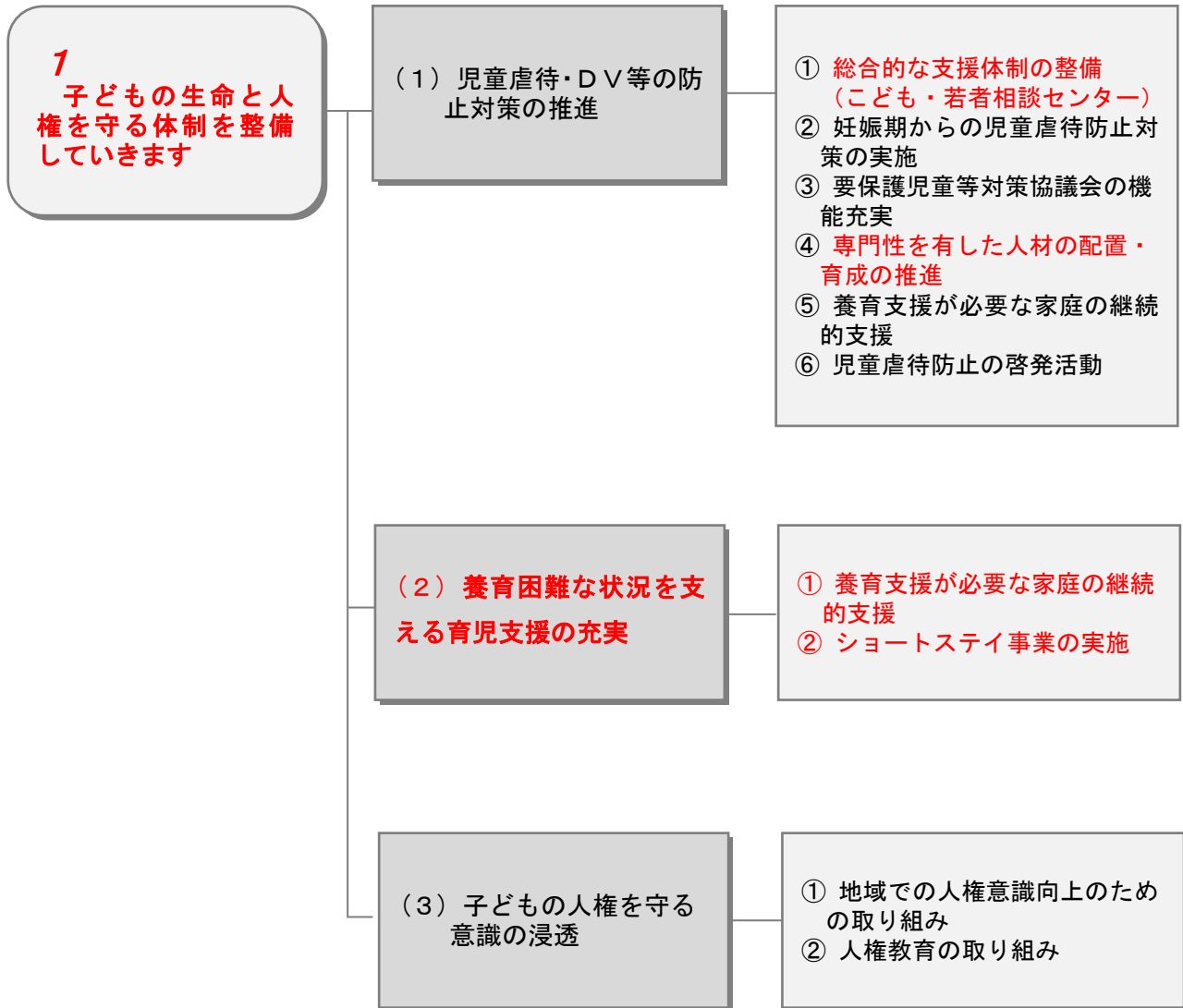
妊娠期から乳幼児期までの母子の健康保持増進及び乳幼児、児童の健やかな成長のために、愛着形成と生活リズムの向上を推進し母子保健の充実を図ります。

また、関係機関との連携体制を強化し、妊娠期から乳幼児期までの切れ目ない支援体制を構築します。



## 行動指針 4 特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の充実

すべての子どもが、自らの権利が保障され個性やよさを伸ばしていけるようにするために、個の状況に応じた必要かつ適切な支援を行います。



## 2

一人一人の成長をよく見つめ、個性を大切に  
する発達支援を実現していきます

(1) 乳幼児期からの早期の  
的確な支援の充実

- ① 乳幼児健診時における専門職による相談体制
- ② 磐田市発達支援センターの機能の強化
- ③ 医療的ケアが必要な児童への支援

(2) 切れ目のない発達支援体制の  
充実

- ① 障害児通所支援事業
- ② 就労支援までの一貫した発達支援体制の充実
- ③ ライフステージに応じた相談支援

(3) 保育園、幼稚園、認定こども園、  
小中学校における特別支援の充実

- ① 各園や各学校における特別支援体制の確立
- ② 職員研修の充実と職員への専門機関による支援

(4) 支援者等の専門性の向上

- ① 発達支援研修の計画的実施
- ② 発達支援ハンドブックの作成・活用

## 2

子どもの成長発達に関する知識を  
広く家庭・地域に浸透させていきます

(1) 保護者・子育て家庭への啓発の  
推進

- ① 保護者対象の支援講座の実施
- ② 成長・発達に関する知識の普及

(2) 地域・社会への啓発の推進

- ① 知識啓発のための講演会の企画
- ② 発達支援に関する情報提供

## 4

外国につながる子どもへの支援を  
充実させます

(1) 子どもの教育環境の整備

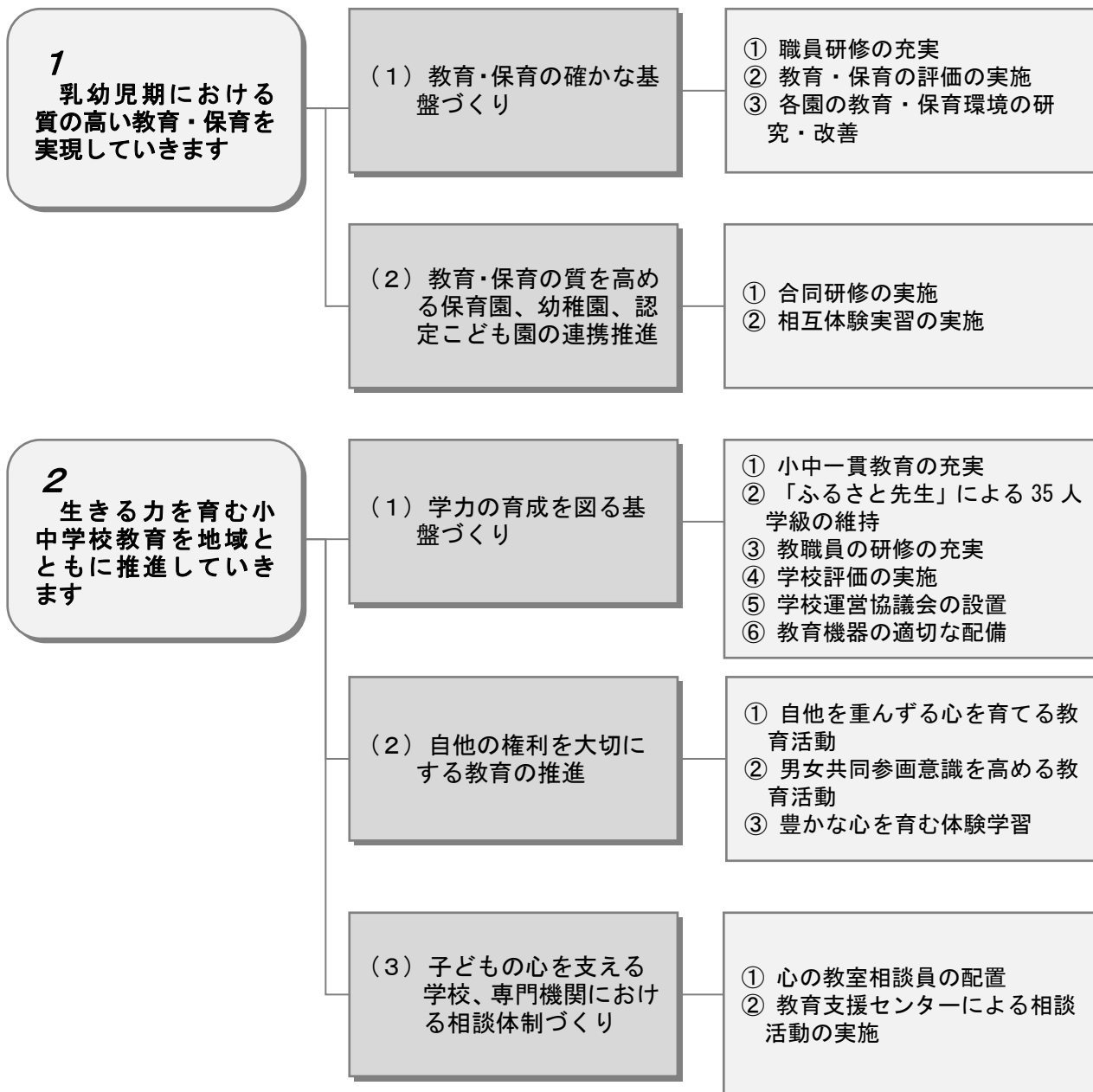
- ① 児童・生徒数の増加・多国籍化に対応した支援体制の整備
- ② 多文化交流センター等による支援

(2) 保護者への情報提供

- ① 相談窓口への通訳の配置
- ② 子育てアプリによる情報提供

## 行動指針 5 健やかな成長を目指す乳幼児期から中学校までの保育・教育の充実

社会において自立的に生きる基礎を培うために、学校、園、地域が連携し、子どもの豊かで健全な心身と確かな学力を育てる質の高い保育・教育を実践します。



### 3

園児、小学生、中学生の成長・発達を連続的にとらえ、各園、各学校及び地域の連携による教育・保育を推進していきます

#### (1) 地域を生かした体験学習の充実

- ① 伝統行事を後世に伝えていく機会の設定
- ② 子どもたちと地域高齢者との交流の場の設定
- ③ 子どもたちの地域活動参加を促す働きかけ

#### (2) 共に楽しむ交流活動の推進

- ① 中学生と園児との交流体験の実施
- ② 小学生と園児の相互交流活動の実施

#### (3) 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校の円滑な連携・接続の推進

- ① 各園と小学校の円滑な連携・接続の取り組み
- ② 生活環境の変化に関する理解を促す保護者への働きかけ

### 4

園児、小学生、中学生が心身ともに健やかに成長できるよう支援していきます

#### (1) 適切な生活習慣の定着を図る健康教育の推進

- ① 健康教育の取り組み
- ② 健康被害防止のための教育の取り組み
- ③ 食育の取り組み

#### (2) 地域における触れ合いの場の充実

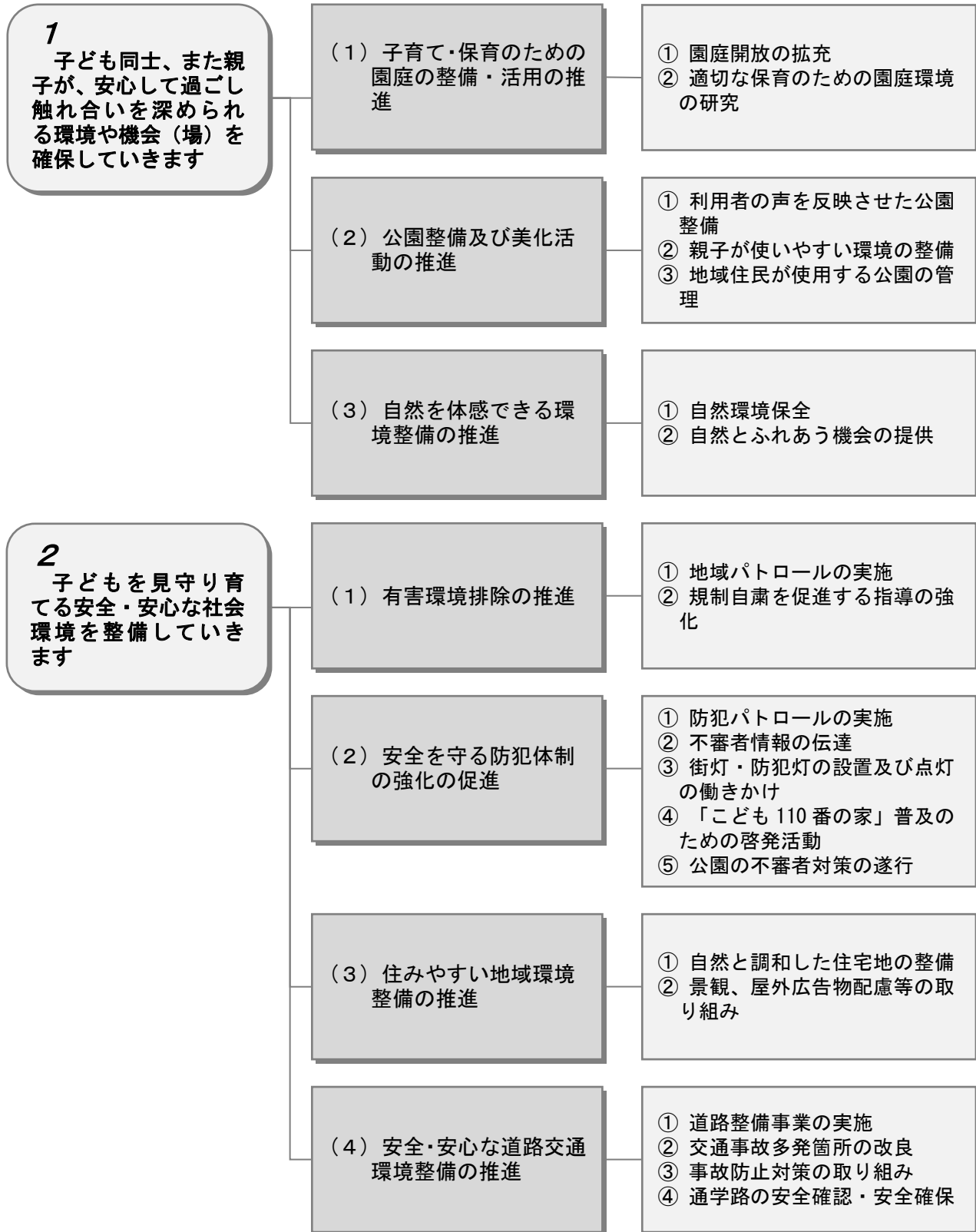
- ① スポーツに関するイベント・教室等の実施
- ② 子ども会活動による体験機会の提供

#### (3) 小学生及び中学生の健全育成を図る思春期における教育の充実

- ① 中学校思春期セミナー・講座の実施
- ② 中学校における性体験に関する指導の実施
- ③ 小中学校におけるキャリア教育の取り組み

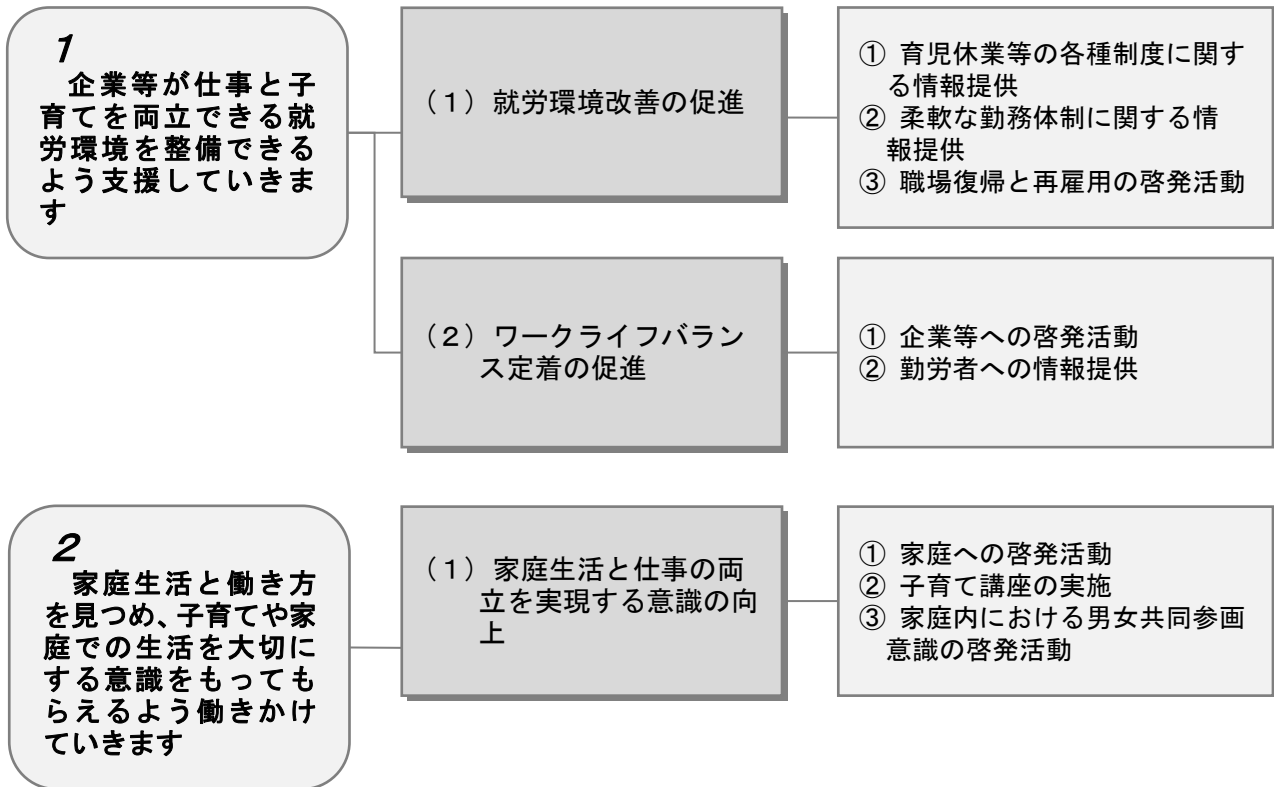
## 行動指針 6 子育てに適した人に優しく温もりのあるまちを創るための環境の整備・改善

安心して子育てができる、人に優しく温もりのあるまちにするために、道路・交通環境、地域環境、防犯体制等の改善・整備に努めます。



## 行動指針 7 子育てに向き合うことができる就労環境及び家庭生活の実現

男性も女性も子育てに向き合えるようにするため、仕事と家庭生活を両立できる就労環境の実現を企業と家庭に働きかけていきます。



## 第4章 行動計画

### 行動指針 1 乳幼児期における質の高い教育・保育を提供するための体制づくり

「磐田市幼稚園・保育園再編計画」に基づき、就学前の教育・保育を総合的に提供する体制を整備し、多様なニーズに対応していきます。

#### 1 教育・保育利用者や地域の実態を考慮し、提供区域の設定をしていきます

##### (1) 提供区域の設定

###### ① 実態に応じた教育・保育の提供区域の弾力的設定

◆ 市内に3つの提供区域\*1を設定し、利用調整を行っていきます。ただし、提供区域間で需給バランスについて著しい差が生じた場合は、その差の是正に努めるとともに、状況に応じて近接の提供区域を含めて利用調整を行っていきます。

\*1) 提供区域とは

提供区域A：城山中校区、磐田第一中校区、豊田南中校区、神明中校区

提供区域B：福田中校区、南部中校区、竜洋中校区

提供区域C：向陽中校区、豊田中校区、豊岡中校区

#### 2 園の教育・保育の質の向上を図るための体制を整備していきます

##### (1) 園の教育・保育の向上を目指した体制づくり

###### ① 公私立各園の更なる連携の検討

◆ 教育・保育の質の向上を図るために、公私立の幼稚園・保育園・認定こども園の更なる連携について引き続き検討していきます。

◆ 教育・保育の質の向上を図るために、地域型保育事業・認可外保育施設等についても、連携と情報共有ができる体制づくりをしていきます。

###### ② 各園の職員を支える研修会の実施

◆ 公私立の幼稚園・保育園・認定こども園等の職員が、自らの教育・保育の力量を高めることができる研修の機会を設定していきます。

##### (2) きめ細かな教育・保育を進めるための職員体制の整備

###### ① 個に応じた支援をするための職員配置

◆ 個に応じた支援を充実させるために、適切な職員配置に努めていきます。



## ② 適正な学級定数基準の設定

- ◆ 教育・保育の質を高めるために、公立幼稚園の3歳児については学級定数を25人以下とします。

### 3 既存施設の再編・事業拡大及び新規事業による提供量の拡大を進めていきます

#### (1) 公立幼稚園・認定こども園における教育・保育の充実

##### ① 預かり保育の実施

- ◆ 公立の幼稚園・認定こども園において、在園する子どもの家庭の保育状況を考慮し、在籍園児について預かり保育を実施します。

##### ② 認定こども園への移行の検討

- ◆ 2号認定\*1子どもの受け入れ人数を増やしていくために、必要に応じて公立幼稚園の認定こども園への移行を検討していきます。

\*1) 認定とは

1号認定

満3歳以上で幼稚園等での教育を希望（教育標準時間認定）

2号認定

満3歳以上で「保育の必要な事由」に該当し、保育所等での保育を希望（保育認定）

3号認定

満3歳未満で「保育の必要な事由」に該当し、保育所等での保育を希望（保育認定）

#### (2) 私立幼稚園・認定こども園における教育・保育の充実

##### ① 私立幼稚園・認定こども園の連携と情報共有

- ◆ 教育・保育の質の向上及び受け入れ人数の拡大を図るために、私立幼稚園・認定こども園の連携と情報共有を図っていきます。

##### ② 私立幼稚園の認定こども園への移行の支援

- ◆ 私立幼稚園の認定こども園への移行を支援し、2号・3号認定子どもの受け入れを拡充していきます。

#### (3) 公私立の保育園・認定こども園における教育・保育の充実

##### ① 公私立保育園における施設の整備・拡充

- ◆ 3号認定子どもの受け入れ枠を拡大するとともに教育・保育の質を高めていけるよう、施設の整備・拡充について検討・支援していきます。

## ② 公私立保育園の認定こども園移行の検討・支援

- ◆ 教育・保育の質の向上及び受け入れ人数の拡大を図るために、公私立保育園の認定こども園への移行を検討・支援します。

## ③ 延長保育の実施 **★事業(延長保育事業)**

- ◆ 保育認定を受けた子ども(2号・3号認定子ども)について、通常の利用時間以外の時間帯であっても、保育園、認定こども園において必要に応じて延長保育を実施します。

## (4) 新規事業による保育の供給量の拡大

### ① 認可外保育園の特定教育・保育施設または特定地域型保育事業への移行支援

- ◆ 認可外保育園の特定教育・保育施設または特定地域型保育事業への移行を支援し、3号認定子どもの受け入れ拡大を図るとともに、教育・保育の質の向上に努めていきます。また、特定地域型保育事業施設と公私立の特定教育・保育施設との連携が円滑に図られるよう支援していきます。

### ② 民間事業者の参入の促進

- ◆ 各地区の保育ニーズと利用定員のバランスを把握し、保育の供給量が少ない区域において、民間事業者による特定教育・保育施設や特定地域型保育事業への参入を促進していきます。

## **行動指針 2** 家庭、地域、関係機関が連携した子育て支援の体制づくり

家庭、地域、関係機関の連携が図られた子育て支援の体制を整備し、安心して子育てができるようにします。

### 1 子ども・保護者の不安を解消する子ども・子育て支援体制を整えていきます

#### (1) 身近な子育て支援体制づくり

##### ① 子育て家庭のニーズや地域の子育て支援の実態把握

- ◆ 子育て支援施設や子育て支援サークル等、地域の子育て支援の実態把握に努め、地域における子育て支援体制づくりにつなげていきます。
- ◆ 家庭訪問、健康診断等の事業において相互理解を深め、子育て家庭の状況やニーズを適切に把握していくことに努めていきます。

##### ② 地域の力を生かした子育て支援 **☆母子保健**

- ◆ 民生委員・児童委員や自治会役員等と子育て家庭との連携について検討し、有効な子育て支援策を検討していきます。
- ◆ 学校及び各施設等と民生委員・児童委員との連携の強化を図っていきます。

##### ③ 地域・社会が求める子育て支援サービスの検討

- ◆ 子育て相談員等が、子育て家庭や地域の方のニーズの把握に努め、子育て支援事業の改善に生かしていきます。

#### ④ 子育て相談員による支援

◆ 子育て相談員が、乳児がいる家庭の求めに応じて訪問し、子育ての手助けをしたり、不安の解消に努めたりしていきます。

### (2) 子育て支援センターの整備

#### ① 子育て支援センターの再編の推進 **★事業(地域子育て支援拠点事業)**

◆ 子育て支援センター等、子育て支援を目的とした施設の再編を推進し、全市内にわたり子育て支援サービスの充実を図っていきます。

### (3) 不安を解消する相談体制づくり

#### ① 保護者のための相談窓口 **★事業(利用者支援事業)**

◆ 保護者が子どもの発育や子育ての不安や悩みを行政窓口や地域の拠点施設(こども・若者相談センター、子育て支援センター、にこっと、幼稚園、保育園、認定こども園等)に相談できる体制を整備していきます。

#### ② 子どものための相談窓口

◆ 児童・生徒が、直接相談できる窓口を整備し、必要なときに安心してすぐに相談できるよう体制を整えていきます。

### (4) 子育ての専門性を有した人材育成の推進

#### ① 子育て相談員・子育て支援センター職員等を対象とした研修の実施

◆ 子育て相談員・子育て支援センター職員等の専門性を高めるための研修の充実に努めます。

## 2 子育て家庭の多様なニーズに対応する保育サービスの充実を図っていきます

### (1) 一時的な保育ニーズに対応するための保育体制づくり

#### ① 一時預かり事業の実施 **★事業(一時預かり事業)**

◆ 家庭において保育を受けることが困難となった乳幼児について、地域子育て支援センター、保育園等において一時預かり事業を実施していきます。

#### ② 病後児保育の実施

◆ 私立保育園での看護師による一時的な病後児保育を継続していきます。

#### ③ 病児保育の実施を検討 **★事業(病児保育事業)**

◆ 利用者ニーズに対応するため、病児保育の実施を検討していきます。

### 3 小学生が、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるように「放課後子ども総合プラン」を推進していきます

#### (1) 放課後児童クラブの整備

##### ① 利用者ニーズに対応した体制づくり **★事業(放課後児童クラブの整備)**

◆ 受け入れ施設の整備及び必要な支援員数の確保に努めていきます。

##### ② 支援員の専門性及び質の向上のための取り組み

◆ 発達障がいやアレルギー対策等の研修会や、県のアドバイザー派遣により、支援員の専門性及び質の向上を図ります。

##### ③ 放課後子供教室との一体的な取り組み

◆ 開催場所（学校や公民館等）が同じ放課後子供教室の学習や体験・交流活動に、児童クラブの児童も参加していくようにします。

##### ④ 小学校の余裕教室等の活用

◆ 小学校と連携し、余裕教室等を活用した児童クラブの運営を推進することで、対象学年拡大に伴う利用児童の増加に対応していきます。

##### ⑤ 開所時間延長の検討

◆ 保育園や近隣の児童クラブの状況や利用者のニーズを把握し、児童クラブの開所時間の延長について検討していきます。

##### ⑥ 放課後児童クラブの役割の向上

◆ 基本的な生活習慣の習得や異年齢児童との交わりを通じ、子どもの自主性、社会性等のより一層の向上を図る。

#### (2) 放課後子供教室の整備

##### ① 放課後子供教室の拡充

◆ 放課後の子どもたちの生活を充実したものにしていくために、放課後子供教室の増設に努めていきます。

##### ② 放課後児童クラブとの連携

◆ 共通のプログラムを企画する等、放課後児童クラブの従事者と連携し、放課後児童クラブの利用児童の中の希望者が子供教室に参加できるようにしていきます。

##### ③ 指導員の資質向上を図る研修

◆ 放課後子供教室の指導員を対象とした発達障がい等に関する研修を実施することにより、指導員の専門性及び資質の向上を図っていきます。

## 4 家庭、地域、関係機関、子育てサークル等が連携した子育て及び教育の支援ネットワークを作っていきます

### (1) 子育て家庭をつなげる相互支援体制づくり

#### ① 子育て交流活動への支援

◆ 地域の子ども・子育て支援サークルや子育て家庭と地域の方々との交流を促進する活動を支援していきます。

#### ② ファミリーサポートセンター事業 **★事業(子育て援助活動支援事業)**

◆ ファミリーサポートセンター事業について広報するとともに、援助会員の拡大及び育成を進め、様々な子育てニーズに対応していけるようにします。

#### ③ 子育て支援センターによる交流活動への支援 **★事業(地域子育て支援拠点事業)**

◆ 地域が取り組む子育て支援、子育て交流事業等に対する子育て支援センターの支援を拡充していきます。

## 5 子育ての知識・技能を多くの人々が共有できるようにしていきます

### (1) 子育てに必要な知識・技能の啓発

#### ① 親支援講座の開催

◆ 保護者を対象とした子育て講座・親支援講座を開催し、子育ての悩みを解消したり、幼児期の適切なしつけに役立つ知識・技能を伝えたりしていきます。

#### ② 健康診断時等における啓発活動

◆ 健康診断時等に個別相談の機会を設け、子育てに役立つ母子保健の知識を伝えていきます。

## 6 必要とする子育て支援情報を子育て家庭・地域に届けていきます

### (1) 広く市民に届けるための情報提供手段の充実

#### ① 子育て応援サイト・子育てアプリによる情報提供 **★事業(利用者支援事業)**

◆ 子育て支援を目的とした様々な取り組みを子育て応援サイトや子育てアプリにより発信し、いつでも利用者が情報を得ることができるようにしていきます。

#### ② 情報誌・リーフレットによる情報提供 **★事業(利用者支援事業)**

◆ 子育てに関する情報を記載した情報誌やリーフレットを交流センター、大型商業施設等、多くの人々が利用する場所に置いたり、乳児家庭訪問等の機会に直接渡したりするなど、広報に努めていきます。

## (2) 子育て家庭に届けるための情報提供手段の充実

### ① 相談窓口による情報提供

◆ 行政窓口や地域の拠点施設等での相談支援において、利用者のニーズに応じて、子育て支援事業、教育・保育・**就職等の情報**を提供していきます。

### ② 訪問等による情報提供

◆ 健康診査や家庭訪問等の機会をとらえ、子育て支援事業、教育・保育の提供等の情報を直接伝えていきます。

## 7 経済的な支援により、子育て家庭の経済的負担の軽減を図っていきます

### (1) 子どもを守り育てる手当・助成の整備

#### ① こども医療費の助成

◆ 子どもを安心して育てられるよう**高校3年生**までの子どもの医療費の助成を行います。

#### ② 児童手当の支給

◆ 子どもを育てる家庭の生活の安定と子どもの健全な育成のために、**中学3年生**までの子どもを養育している保護者に手当を支給します。

#### ③ 未熟児養育医療費の助成

◆ 入院医療を必要とする未熟児に対して、養育に必要な医療費を助成します。

#### ④ **中学生スタートアップ応援事業**

◆ 中学校に入学を予定する児童とその保護者に学校指定の制服および体育衣料の購入に使える**商品券**を支給します

#### ⑤ 就学援助費の支給 **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 経済的理由によって就学援助を希望する場合、保護者に学用品や経費の一部を援助します。

#### ⑥ **実費徴収に係る補足給付を行う事業** **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 教育・保育施設の日用品・文房具など必要な物品の購入に要する費用や、行事への参加に要する費用などの実費負担について補助を行います。

#### ⑦ **学習チャレンジ事業** **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 生活保護受給世帯等の子どもを対象に学習の場の提供や教育相談を行い、高校への進学を推進することにより、将来の自立促進に向けた支援を行います。

### (2) ひとり親家庭を支える支援体制の整備

#### ① 母子家庭等医療費の助成 **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 母子家庭・父子家庭の経済的負担の軽減のために、医療費を助成していきます。



② 児童扶養手当の支給 **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 離別や死別などにより、母子家庭、父子家庭になった方に手当を支給します。

③ 母子家庭等自立支援給付金の支給 **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ 母子家庭の母親、**父子家庭の父親に対し**、就職に役立つ技能や資格を取得するための講座受講や養成機関修業の費用を助成します。

④ ひとり親家庭子育てサポート事業 **★事業(子どもの貧困対策)**

◆ ひとり親家庭の子育てに係る経済的負担を軽減するため、病後児・延長・休日保育事業、ファミリーサポートセンター事業を利用した場合に利用料の一部を助成します。

## 行動指針 3 母親と子どもの健康保持増進のための支援の充実（母子保健計画）

妊娠期から乳幼児期までの母子の健康保持増進及び乳幼児、児童の健やかな成長のために、愛着形成と生活リズムの向上を推進し母子保健の充実を図ります。

また、関係機関との連携体制を強化し、妊娠期から乳幼児期までの切れ目ない支援体制を構築します。

### 1 健全な発育・発達のために母子の愛着形成と生活リズムの向上を推進し、健康な生活習慣づくりを支援していきます

#### （1）妊娠期を迎えるための経済的な支援

① 不妊・不妊治療費補助

◆ 妊娠を希望している夫婦への経済的負担の軽減のために、一般不妊治療費、**特定不妊治療費及び不妊治療費の補助を継続していきます。**

◆ **不妊・不妊治療**を必要とする方が、不妊治療助成の情報を得ることができるようにするために、広報紙、ホームページ、リーフレットの配布等による情報発信に努め、制度の利用促進を図ります。

#### （2）妊娠**産褥**期の適切な健康管理と支援

① 母子健康手帳の交付と保健指導

◆ 妊**産**婦の健康管理と子どもの健やかな成長のために、母子健康手帳を交付し、妊娠中の健康管理、出産・育児のための適切な情報提供と相談支援に努めます。

◆ 妊婦の喫煙・飲酒状況を把握し、喫煙・飲酒の胎児への影響等について、適切な情報提供に努めます。

◆ 個別に支援を必要とする妊婦に対して継続的に保健指導の実施に努めます。

② 妊**産**婦健康診査の実施と適切な受診のための啓発活動 **★事業(妊婦健康診査)**

◆ 妊**産**婦の健康管理と子どもの健やかな成長のために、妊婦健康診査の費用を一部助成し、適切

な受診の啓発に取り組みます。

### ③ 医療機関等との連携

◆ 安全・安心な妊娠出産を目指し、産婦人科医療機関や県西部保健所、庁内関係機関等と支援の方向を検討し情報交換をしながら、適切な妊婦への支援を進めていきます。

## (3) 乳幼児の健全な発育・発達のための支援

### ① こんにちは赤ちゃん訪問事業 **★事業(乳児家庭全戸訪問事業)**

◆ 生後4か月までの乳児のいる家庭の全戸訪問を実施し、産婦の健康管理のための支援を行うとともに、育児等に関する様々な不安や悩みを把握し、子育て支援に関する必要な情報の提供に努めます。

◆ 安心して子育てができるよう、相談機関等の窓口の周知を図るとともに、支援が必要な産婦や乳児に対して、関係機関と連携を図り、育児支援を進めていきます。

### ② 乳幼児相談及び地域における子育て支援

◆ 健全な発育・発達を促し、子育ての悩みに対応するため、保健師・栄養士・助産師・歯科衛生士による相談を実施します。

◆ 保護者が楽しんで育児に取り組めるように育児支援の情報を提供し、父親の積極的な育児参加を促します。

◆ 地域において交流の場を設け、健全な発育発達を促すための啓発や育児相談を実施し、子育て支援を進めます。

### ③ 育児教室及び健康教育等の実施

◆ 乳幼児の年齢に応じた育児教室を開催し、健全な発育発達を促すための情報の提供に努めます。

◆ 母子愛着の形成及び生活リズム向上を目指し、健康診断や教室・相談・訪問の機会を通して、必要な情報を提供していきます。

◆ 乳幼児揺さぶられ症候群、乳幼児突然死症候群、乳幼児事故等を予防するため、健診や教室・相談・訪問の機会を通して、必要な情報を提供していきます。

### ④ 乳幼児健康診査の実施

◆ 発育及び発達の節目の時期をとらえ、4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳児を対象に健康診査を実施し、子どもが健康でいきいきと成長していくことができるよう支援していきます。

◆ 健診未受診者に対して、受診勧奨に努めるとともに、幼児健診未受診者全員の状況把握に努めます。

### ⑤ 健診事後教室の実施と支援を必要とする乳幼児の個別支援

◆ 幼児健診等で支援が必要とされた子どもと保護者を対象に、健診事後教室や訪問・相談等で支援していきます。

### ⑥ 乳幼児の成長発達を促すための連携支援

◆ 関係機関との連携を図り、疾病や障がいの早期発見に努め、早期療育に繋げていきます。



## ⑦ 医療機関の情報提供

- ◆ 保護者に医療機関情報を提供し、かかりつけ医の普及に努めていきます。

## (4) 健康な生活を送るための生活習慣づくり

### ① 生活リズム向上対策の取り組み

- ◆ 健全な発育・発達を促し、生活習慣病を予防するために、「食べて動いてよく寝よう」をテーマに、関係機関と連携を図りながら、生活リズム向上のための啓発に努めていきます。
- ◆ 生活習慣病予防の推進のために、保育園や幼稚園との連携を図っていきます。

### ② 年齢に応じた望ましい食生活の啓発

- ◆ 年齢や発達段階等に応じた望ましい食習慣の確立のために、具体的な実践方法を啓発していきます。
- ◆ 給食を提供する園や学校において、食物アレルギーのある子どもの状態を把握し、適切で安全な給食の提供に努めます。"

### ③ 歯科保健対策の取り組み

- ◆ むし歯予防のために、健康教育やフッ化物推進事業に取り組みます。

## (5) 感染症対策の推進

### ① 予防接種事業の実施

- ◆ 感染症を予防するため、予防接種の啓発に取り組み、接種率の向上に努めていきます。

## 行動指針 4 特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の充実

すべての子どもが、自らの権利が保障され個性やよさを伸ばしていけるようにするために、個に応じた必要かつ適切な支援を行います。

### 1 子どもの生命と人権を守る体制を整備していきます

#### (1) 児童虐待・DV等の防止対策の推進

##### ① 総合的な支援体制の整備（こども・若者相談センター）

- ◆ 児童虐待対応を含め、児童に対する継続的なソーシャルワークを行う「市区町村子ども家庭支援拠点」の機能と、DVへの対応・中学卒業以降の児童に対する若者相談を一体的に行い、複雑な要因によるケース等にも総合的な相談支援ができる運用に努めます。

##### ② 妊娠期からの児童虐待防止対策の実施 ☆母子保健

- ◆ 虐待の発生を防ぐために、妊娠・出産・育児に不安を抱えている保護者に対して個別支援を継続して実施していきます。また、必要に応じ関係機関との連携に努めます。

### ③ 要保護児童等対策協議会の機能充実

◆ 要保護児童等対策協議会の充実を図り、各関係機関との連携強化に努めていきます。また、支援が必要な子どもに対しては、再発防止に向けた継続的な支援に努めていきます。

### ④ 専門性を有した人材の配置・育成の推進

◆ 相談・訪問対応強化や関係機関との連携強化のため専門職（教員・保健師・保育士等）を配置し対応力を高めるとともに、人材の育成にも努めていきます。

### ⑤ 児童虐待防止の啓発活動

◆ 虐待通報義務についての啓発を進め、早期発見・早期対応・未然防止の取り組みがより確かに行われる地域づくりに努めていきます。（オレンジリボン運動）

## （2）養育困難な状況を支える育児支援の充実

### ① 養育支援が必要な家庭の継続的支援 **★事業(養育支援訪問事業)**

◆ 養育支援が必要な家庭に対して、養育支援訪問員等による指導・助言を行い、当該家庭が適切に養育できるようにしていきます。

### ② ショートステイ事業の実施 **★事業(子育て短期支援事業)**

◆ 保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童を預かることによって、子育て家庭を支えていく体制を整備していきます。

## （3）子どもの人権を守る意識の浸透

### ① 地域での人権意識向上のための取り組み

◆ 地域の大人が、子どもの人権や幼児・児童・青少年の育成のために果たすべき役割について考えを深める機会の提供に努めていきます。

### ② 人権教育の取り組み

◆ 学校・園において人権教育を総合的に推進し、自他を尊重し、互いに支え合いながら生活する「共生」の意識を醸成していきます。

## 2 一人一人の成長をよく見つけ、個性を大切にす発達支援を実現していきます

### （1）乳幼児期からの早期の的確な支援の充実

#### ① 乳幼児健診時における専門職による相談 **☆母子保健**

◆ 各種健診時に専門職に相談する機会を設け、発達障がい疑われる場合には、早期に支援を進めることができるようにします。

#### ② 磐田市発達支援センターの機能の強化

◆ 検査、支援の必要性を考慮したうえで、ニーズに見合うように発達支援センターの専門職員を配置し、早期に支援体制が整うようにします。

### ③ 医療的ケアが必要な児童への支援

◆医療的ケアが必要な児童が必要なサービスを受けられるよう支援体制の整備を進めます。

## (2) 切れ目のない発達支援体制の充実

### ① 障害児通所支援事業

◆身近な地域での生活を支援する通所サービス、相談支援に対して給付を行います。

### ② 就労支援までの一貫した発達支援体制の充実

◆児童発達支援から就労支援までの一貫した支援体制を整備します。

◆児童発達支援センター、磐田市発達支援センター、関係機関等が連携した地域における発達支援ネットワークの構築を促進していきます。

### ③ ライフステージに応じた相談支援

◆発達支援センターの来所相談・巡回相談、保健師による相談、保育所等訪問支援、障害児相談支援事業、教育相談など、どのライフステージにおいても相談できる窓口を整備します。

## (3) 保育園、幼稚園、認定こども園、小中学校における特別支援の充実

### ① 各園や各学校における特別支援体制の確立

◆発達障がいを含むすべての障がいのある園児・児童の実態を的確にとらえ、個別の指導計画、教育支援計画を作成して活用するとともに、関係機関との連携により必要な支援を行っていきます。

### ② 職員研修の充実と職員への専門機関による支援

◆校内・園内における職員研修の充実をはかるために、専門機関・専門職員が計画的に研修の支援を推進します。

◆保育園、幼稚園、認定こども園及び小中学校と発達支援室・発達支援センターとの連携を強固なものとし、巡回相談が適切かつ有効な支援の機能を果たせるようにしていきます。

## (4) 支援者等の専門性の向上

### ① 発達支援研修の計画的実施

◆関係機関の職員や支援者の課題を把握し、現場で活かせる研修を計画的に実施していきます。

### ② 発達支援ハンドブックの作成・活用

◆「発達支援ハンドブック」を作成し、保育園、幼稚園、認定こども園及び小中学校の職員や発達支援に関わる職員が日常の教育・保育において有効に活用することによって、子どもが必要な支援を受けられるようにしていきます。

### 3 子どもの成長発達に関する知識を広く家庭・地域に浸透させていきます

#### (1) 保護者・子育て家庭への啓発の推進

##### ① 保護者対象の支援講座の実施

◆ 不安や悩みをもつ保護者を含め、発達支援に関心のある保護者を対象に、子どもへの対応方法などを学ぶとともに孤立感の軽減となる講座を開催します。

##### ② 成長・発達に関する知識の普及

◆ 乳幼児健康診査や乳幼児教室、家庭訪問、子育て支援センターの講座等の機会をとらえ、専門的な知識のある職員が発達に関する相談に応じたり、知識を伝えたりしていくことに努めます。

#### (2) 地域・社会への啓発の推進

##### ① 知識啓発のための講演会の企画

◆ 発達障がいについての理解を広めるため、一般市民向けの講演会を開催します。

##### ② 発達支援に関する情報提供

◆ 一般社会において、発達障がいについての理解を広めていくために、障がいの表れや適切な対応をリーフレットにまとめ配布していきます。また、ITネットワーク等を活用して発達障がいに関する情報提供をしていきます。

### 4 外国につながる子どもへの支援を充実させます

#### (1) 子どもの教育環境の整備

##### ① 児童・生徒数の増加・多国籍化に対応した支援体制の整備

◆ 初期支援教室や園・学校に外国人相談員を配置または派遣することにより、外国人児童をサポートしていきます。また、学校と多文化交流センターの連携を深めていきます。

##### ② 多文化交流センターによる支援

◆ 小中学校と連携し、多文化交流センター等において、外国人の子どもが自立した生活を送れるよう学習支援を行います。

#### (2) 保護者への情報提供

##### ① 相談窓口への通訳の配置

◆ こども部窓口やにこっと、園などの相談窓口に通訳を配置し、保護者への情報提供に努めます。

##### ② 子育てアプリによる情報提供

◆ 子育て支援を目的とした様々な取り組みを多言語版子育てアプリにより発信し、いつでも保護者が情報を得ることができるようになります。

## 行動指針 5 健やかな成長を目指す乳幼児期から中学校までの保育・教育の充実

社会において自立的に生きる基礎を培うために、学校、園、地域が連携し、子どもの豊かで健全な心身と確かな学力を育てる質の高い保育・教育を実践します。

### 1 乳幼児期における質の高い教育・保育を実現していきます

#### (1) 教育・保育の確かな基盤づくり

##### ① 職員研修の充実

◆ 乳幼児理解、教育課程、保育課程、コンプライアンス等、多様な視点から研修を充実させていきます。

##### ② 教育・保育の評価の実施

◆ 教育・保育の質を上げていくために、各園が適切に評価を行い、教育・保育の改善に努めていきます。

##### ③ 各園の教育・保育環境の研究・改善

◆ 乳幼児が興味・関心をもち生き生きと活動できるようにするために、教育・保育環境の研究・改善に努めていきます。

#### (2) 教育・保育の質を高める保育園、幼稚園、認定こども園の連携推進

##### ① 合同研修の実施

◆ 各園の職員が互いに保育実践を公開し合い、よりよい保育の在り方を追求していきます。

##### ② 相互体験実習の実施

◆ 各園の体験実習を計画的に実施し、職員の専門性の向上を図っていきます。

### 2 生きる力を育む小中学校教育を地域とともに推進していきます

#### (1) 学力の育成を図る基盤づくり

##### ① 小中一貫教育の充実

◆ 学府（各中学校区）において小中学校の9年間を見通し、小中共通の目標、カリキュラム、指導方法等を考え、小中協働による教育を進めます。

##### ② 「ふるさと先生」による35人学級の維持

◆ 「確かな学びのある子」の育成を目指し、35人学級による個に応じた指導の充実を図っていきます。

##### ③ 教職員の研修の充実

◆ 多様な視点で教職員研修の充実を図り、教育の質の向上を実現します。

##### ④ 学校評価の実施

◆ 各学校が適切に学校評価を実施し、教育活動や学校運営について、組織的かつ継続的に改善を図っていきます。

#### ⑤ 学校運営協議会の設置（コミュニティースクール推進）

◆ 学校が地域とともにある学校づくりを推進していくために、全小中学校に学校運営協議会を設置していきます。

#### ⑥ 教育機器の適切な配備

◆ 小中学校において、電子黒板、パソコン等の整備を拡充し、子どもの興味関心を引き出す授業を目指していきます。

### （２）自他の権利を大切にす教育の推進

#### ① 自他を重んずる心を育てる教育活動

◆ 道徳の時間を中心に、教育活動全体を通じて自他を重んずる心を育てる教育を行っていきます。

#### ② 男女共同参画意識を高める教育活動

◆ 男女が性別により差別されることなく、共に個性と能力を十分発揮できるよう、個人の権利を尊重する教育活動の充実に取り組んでいきます。

#### ③ 豊かな心を育む体験学習

◆ 体験学習を効果的に導入し、確かな知識を獲得するとともに、様々な価値に触れる中で、感じたり、考えたり、喜びを味わったりできるようにし、豊かな心を育てていきます。

### （３）子どもの心を支えるための学校と専門機関における相談体制づくり

#### ① 心の教室相談員の配置

◆ 一時的に学校生活に適應できない小学生と中学生を支援するために、心の教室相談員を配置し相談に応じていきます。

#### ② 教育支援センターによる相談活動の実施

◆ 一時的に登校できなくなった小学生と中学生の支援のために、教育支援センターの機能の充実に努め相談に応じていきます。

## 3 園児、小学生、中学生の成長・発達を連続的にとらえ、各園、各学校及び地域の連携による教育・保育を推進していきます

### （１）地域を生かした体験学習の充実

#### ① 伝統行事を後世に伝えていく機会の設定

◆ 地域の歴史や伝統行事を学ぶことをとおして、地域のよさを知り、それらを守り伝えようとする気持ちを育てていきます。

#### ② 子どもたちと地域高齢者との交流の場の設定



◆ 保育園・幼稚園・認定こども園・小中学校と地域組織や地域施設が連携し、子どもたちと高齢者との交流の場を作っていきます。

③ 子どもたちの地域活動参加を促す働きかけ

◆ 子どもたちが地域活動へ積極的に参加していくよう、各園・各学校から働きかけていきます。

(2) 共に楽しむ交流活動の推進

① 中学生と園児との交流体験の実施

◆ 日常的な教育活動において、中学生と園児との交流活動を進めていきます。

② 小学生と園児との相互交流活動の実施

◆ それぞれの教育・保育のねらいの達成のために、小学生と園児が活動の場を共有し、交流を深められるようにしていきます。

(3) 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校の円滑な連携・接続の推進

① 各園と小学校の円滑な連携・接続の取り組み

◆ 公私立の保育園・幼稚園・認定こども園と小学校の職員による合同研修会を継続し、接続期の教育・保育の在り方を追求し、子どもの成長の機会を保障していきます。

② 生活環境の変化に関する理解を促す保護者への働きかけ

◆ 公私立の保育園・幼稚園・認定こども園、小学校それぞれが、子どもたちが環境の変化を成長の機会としていけるように、子どもの生活環境が変わることについての理解を促す保護者への働きかけに努めていきます。

## 4 園児、小学生、中学生が心身ともに健やかに成長できるよう支援していきます

(1) 適切な生活習慣の定着を図る健康教育の推進

① 健康教育の取り組み

◆ 健康の保持増進のための教育を各園、各学校において、発達段階を考慮し計画的に進めていきます。

② 健康被害防止のための教育の取り組み

◆ 小学校高学年、中学校においては薬物乱用、飲酒・喫煙防止の教育の充実を図ります。

③ 食育の取り組み

◆ 各園、各学校において、「食生活」についての関心を高め、知識を広めるための取り組みを進めていきます。

## (2) 地域における触れ合いの場の充実

### ① スポーツに関するイベント・教室等の実施

◆ 運動を楽しみながら親子、子どもたち同士が触れ合いを深める機会を提供していきます。

## (3) 小学生及び中学生の健全育成を図る思春期における教育の充実

### ① 中学校思春期セミナー・講座の実施 ☆母子保健

◆ 中学生を対象とした家庭教育講座等において、中学生と乳幼児（赤ちゃん）が触れ合う場の提供及び正しい妊娠・出産に関する知識の啓発に努めていきます。

### ② 中学校における性体験に関する指導の実施

◆ 性体験の危険性を含む、性に関する正しい知識を習得できる性教育の充実を図っていきます。

### ③ 小中学校におけるキャリア教育の取り組み

◆ 意思決定を繰り返しながら成長し、自らの目指す姿を実現していく力（キャリア発達にかかわる力）が育つように、各学校において到達目標とそれを具体化した教育プログラムを定め、具体的な教育活動の改善につなげていきます。

## 行動指針 6 子育てに適した人に優しく温もりのあるまちを創るための環境の整備・改善

安心して子育てができる、人に優しく温もりのあるまちにするために、道路・交通環境、地域環境、防犯体制等の改善・整備に努めます。

### 1 子ども同士、また親子が、安心して過ごし触れ合いを深められる環境や機会(場)を確保していきます

#### (1) 子育て・保育のための園庭の整備・活用の推進

##### ① 園庭開放の拡充

◆ 地域の未就園児の親子を対象とした平日午後の園庭開放を拡充していきます。

##### ② 適切な保育のための園庭環境の研究

◆ 園児が主体的に活動する保育を展開するための園庭環境を研究していきます。

#### (2) 公園整備及び美化活動の推進

##### ① 利用者の声を反映させた公園整備

◆ ワークショップを開催し利用者が使いやすい公園を整備していきます。

##### ② 親子が使いやすい環境の整備

◆ 改修の必要性を判断し、順次計画的に対応していきます。



### ③ 地域住民が使用する公園の管理

- ◆ まち美化パートナー（地域美化のための住民の協力）による公園の管理を実施していきます。

## （3）自然を体感できる環境整備の推進

### ① 自然環境保全

- ◆ 周りにある豊かな自然環境を市民全体で保全していけるように取り組みを進めていきます。

### ② 自然とふれあう機会の提供

- ◆ 自然の中で遊ぶ機会が得られにくい現状を踏まえ、自然体験教室、自然観察、ウォーキングなど、地域のイベントなどを通じ、自然と触れ合う機会を提供していきます。

## 2 子どもを見守り育てる安全・安心な社会環境を整備していきます

### （1）有害環境排除の推進

#### ① 地域パトロールの実施

- ◆ 夏休み等の長期休業中期間を中心に、地域住民等の協力を得て地域パトロールを実施していきます。

#### ② 規制自粛を促進する指導の強化

- ◆ ゲームセンター等遊戯施設の出店について、都市計画法の規制に基づき指導をしていきます。

### （2）安全を守る防犯体制の強化の促進

#### ① 防犯パトロールの実施

- ◆ 自治会の協力により、地域でのパトロールを行い、子どもが巻き込まれる犯罪を防止していきます。

#### ② 不審者情報の伝達

- ◆ 「いわたホッとライン」を活用し、不審者の情報を家庭・地域へ配信します。

#### ③ 街灯・防犯灯の設置及び点灯の働きかけ

- ◆ 夕方以降の子どもたちの安全確保のために、街灯・防犯灯の設置に努めるとともに、家庭での玄関灯の点灯を働きかけていきます。

#### ④ 「こども110番の家」普及のための啓発活動

- ◆ 地域に呼びかけ、「こども110番の家」参加家庭の増加を図り、登下校時の子どもの安全確保に努めます。

### （3）住みやすい地域環境整備の推進

#### ① 自然と調和した住宅地の整備

- ◆ 地区計画制度を活用し整備に努めていきます。

## ② 景観、屋外広告物配慮等の取り組み

- ◆ 景観法・屋外広告物法の規制に基づき指導をしていきます。

### (4) 安全・安心な道路交通環境整備の推進

#### ① 道路整備事業の実施

- ◆ 子どもやベビーカーを押す人のことを考え、段差の解消を段階的に進めていきます。

#### ② 交通事故多発箇所の改良

- ◆ 歩行者の多い道路を中心に、交通事故の多い交差点の改良に取り組んでいきます。

#### ③ 事故防止対策の取り組み

- ◆ ドライバーに対し安全運転を啓発していきます。
- ◆ 保護者へチャイルドシートの着用を啓発していきます。

#### ④ 通学路の安全確認・安全確保

- ◆ 通学路の合同点検を実施し安全が確保されているか確認します。
- ◆ 学校、地域において危険回避のための指導を実施します。
- ◆ 安全確保のための整備作業を計画的に進めていきます。

## 行動指針 7 子育てに向き合うことができる就労環境及び家庭生活の実現

男性も女性も子育てに向き合えるようにするため、仕事と家庭生活を両立できる就労環境の実現を企業と家庭に働きかけていきます。

### 1 企業等が仕事と子育てを両立できる就労環境を整備できるよう支援していきます

#### (1) 就労環境改善の促進

##### ① 育児休業等の各種制度に関する情報提供

- ◆ 育児休業をはじめ、育児のための休暇制度を利用しやすい環境を整えていくために企業に必要な情報を提供していきます。

##### ② 柔軟な勤務体制に関する情報提供

- ◆ 就業時間の調整による残業時間の短縮、フレックスタイムや在宅勤務の導入など、子育てがしやすい環境を整えるための情報を企業に提供していきます。

##### ③ 職場復帰と再雇用の啓発活動

- ◆ 出産や育児で退職した者が、職場に復帰できる制度や新たに再雇用される制度の導入を啓発していきます。

## (2) ワークライフバランス定着の促進

### ① 企業等への啓発活動

◆ ワークライフバランスを意識する企業等を増やしていくよう、その浸透のための啓発活動を進めていきます。

### ② 勤労者への情報提供

◆ 勤労者がワークライフバランスの意識をもつよう、労働団体等を通じて情報提供をしていきます。

## 2 家庭生活と働き方を見つめ、子育てや家庭での生活を大切にする意識をもってもらえるよう働きかけていきます

### (1) 家庭生活と仕事の両立を実現する意識の向上

#### ① 家庭への啓発活動

◆ 各家庭がワークライフバランスの意識を高めていくよう、啓発活動を検討し進めていきます。

#### ② 子育て講座の実施

◆ 男性、女性の別なく、保護者を対象とした子育て公開講座への参加を呼びかけ、家庭において子育てを大切にする意識の向上を目指していきます。

#### ③ 家庭内における男女共同参画意識の啓発活動

◆ 男女共同参画の基本理念に根差し、男女が協力して家庭内の役割を果たしていく意識を高めていくよう、啓発活動を検討し進めていきます。

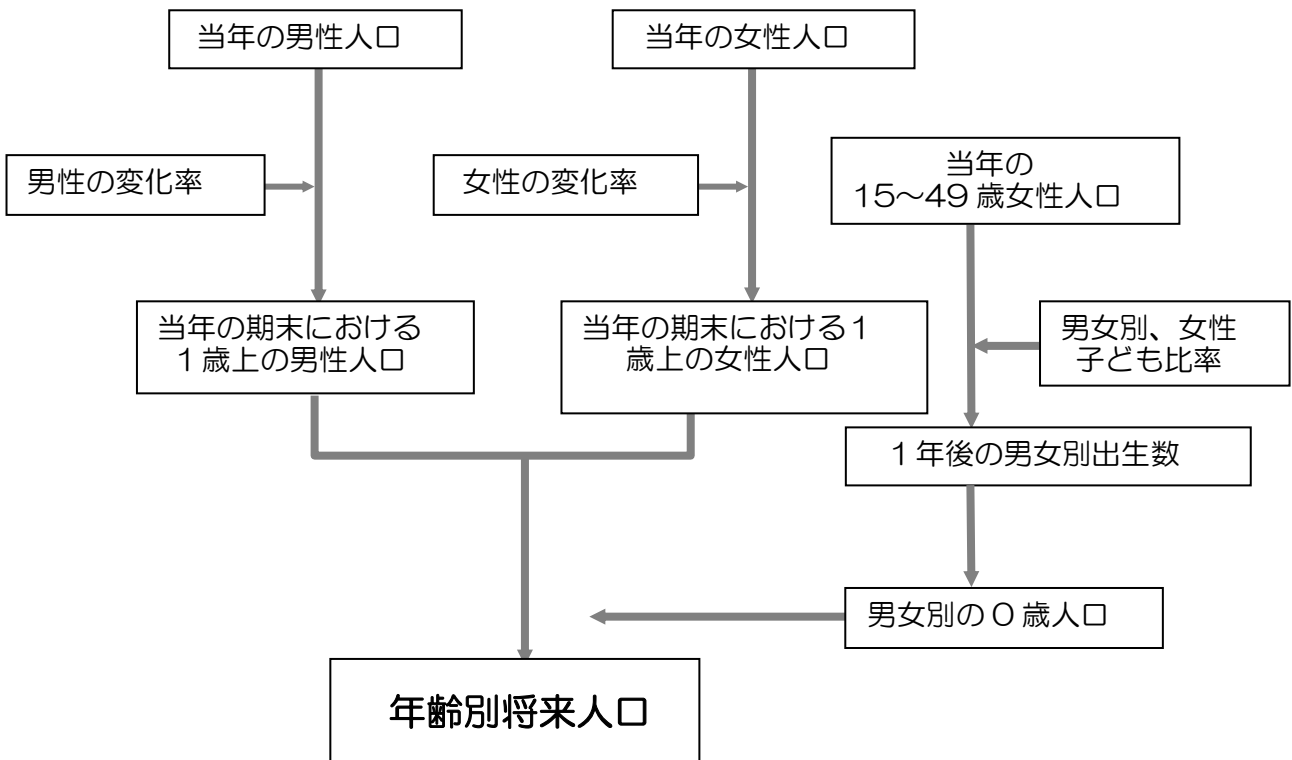
# 第5章 計画の目標値等

## 1 磐田市の将来の人口推計

今回の子ども・子育て支援事業計画策定にあたり、市の将来人口の推計を行っています。推計は幼稚園、保育園の各学年の人数を求める必要があること、また子ども・子育て支援事業計画は5年間の計画期間であること、そして本市では特殊な人口変動が少ないと予想されることから、住民基本台帳の男女各歳別人口を基に、1歳ごとの男女別人口を求めるコーホート変化率\*法によって推計しています。

※コーホート変化率：コーホート (cohort) とは、同年 (又は同時期) に出生した集団の事を指し、コーホート変化率法とは、各コーホートについて過去における実績人口の動態から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

0歳の人口 = 前年の15~49歳の女性人口 × 出生比  
n歳の人口 = 前年のn-1歳の人口 × 変化率  
出生比 : 0歳人口の前年の15~49歳の女性人口に対する比率  
変化率 : n歳の人口の前年のn-1歳の人口に対する比率



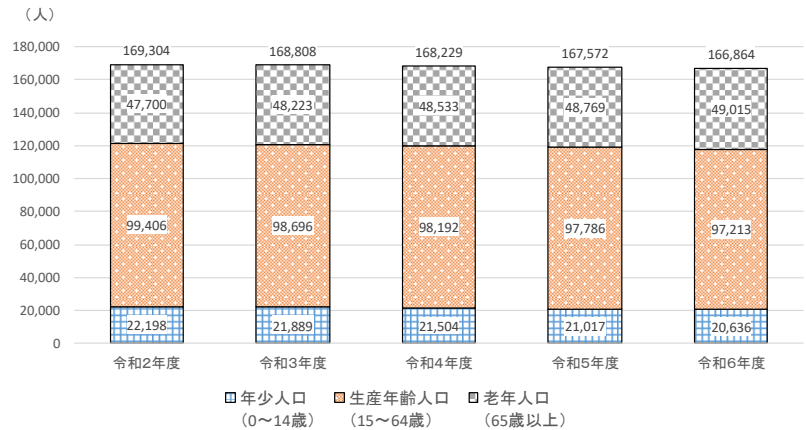
## (1) 人口推計

本市の人口は、本計画最終年の令和6年度は166,864人になると予想されます。

年齢3区別にみると年少人口（0歳～14歳）については令和2年度以降、減少していく見込みとなっており、令和6年度では20,636人となります。

また、老年人口（65歳以上）は令和2年度以降増加していく見込みとなっており、令和6年度では49,015人となります。

生産年齢人口（15歳～64歳）は年少人口と同様に令和2年度以降、減少していく見込みとなっており、令和6年度では97,213人となります。

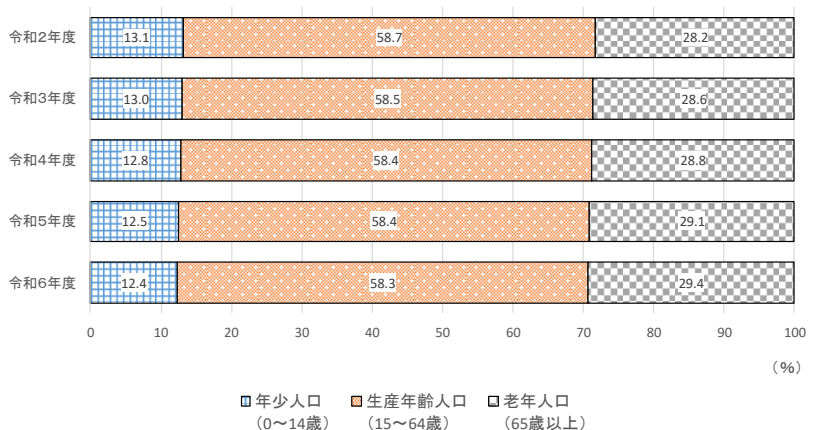


	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年少人口 (0～14歳)	22,198	21,889	21,504	21,017	20,636
生産年齢人口 (15～64歳)	99,406	98,696	98,192	97,786	97,213
老年人口 (65歳以上)	47,700	48,223	48,533	48,769	49,015
総計	169,304	168,808	168,229	167,572	166,864

## (2) 年齢3区分別推計人口割合

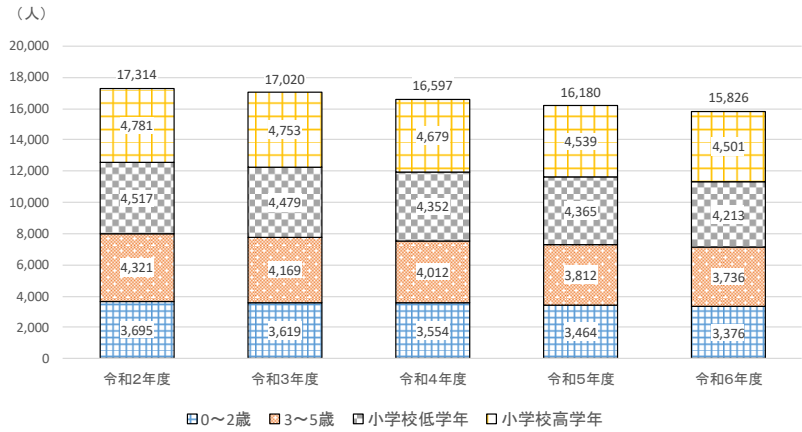
年齢3区分別推計人口割合を見ると、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）の割合は少しずつ低下していき、令和6年度では年少人口割合が12.4%、生産年齢人口割合が58.3%となります。

一方で老年人口（65歳以上）の割合は、令和2年度以降は上昇を続け、令和6年度では29.4%となります。



### (3) 児童人口推計

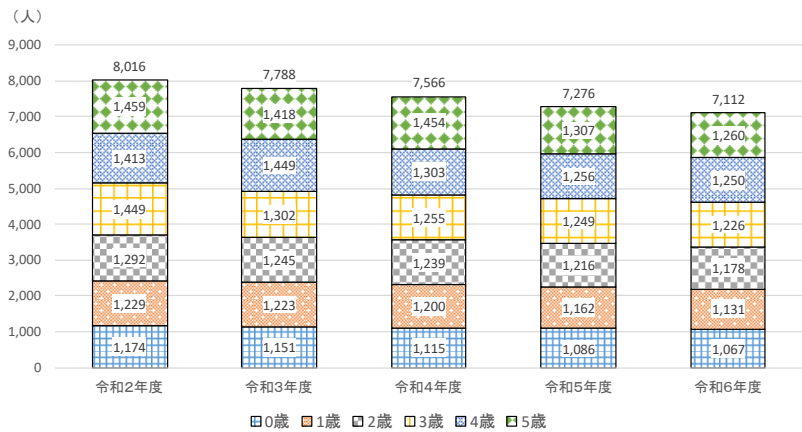
0歳～11歳の児童人口は、令和2年度以降減少を続け、本計画最終年の令和6年度は15,826人になると予想されます。



### (4) 0歳～5歳児童の推計

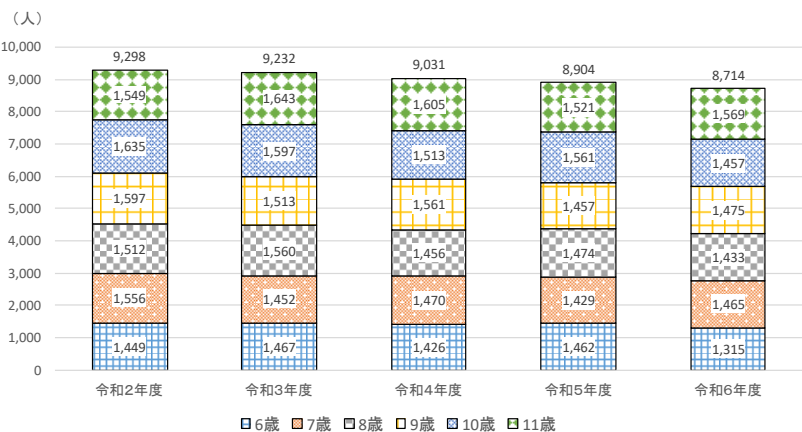
0歳～5歳児童は、令和2年度以降減少していきと予想され、本計画最終年の令和6年度では7,112人になると予想されます。

0歳児の人口が減少（出生数の減少）していきと予想され、母親の妊娠・出産への手厚い支援が必要になります。



### (5) 6歳～11歳児童の推計

6歳～11歳児童は、令和2年度以降減少していきと予想され、本計画最終年の令和6年度では8,714人になると予想されます。



## 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」の考え方

子ども・子育て支援新制度では、子ども・子育て支援法に基づき、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業について、5年間の「量の見込み」（利用に関するニーズ量）及び「確保方策」（量の見込みに対応する確保量と実施時期）を定めることとなっています。

本市では、国が示す基本指針や「量の見込み」の算出等のための手引きに基づき、平成30年度に実施した「磐田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート」の結果や推計児童数、各事業の利用実績等を踏まえ、認定区分や提供区域単位で量の見込みを算出するとともに、それに対応するための確保方策を定めます。

### ① 教育・保育に関する施設

確保方策に関する施設は以下のとおりです。

#### ○ 幼稚園

3歳から小学校入学までの幼児に対して教育・保育を行う施設です。

#### ○ 保育園

就労などのため家庭で保育のできない保護者に代わって教育・保育を行う施設です。

#### ○ 認定こども園

幼稚園と保育園の機能や特徴を併せ持つ施設です。幼保連携型や幼稚園型があります。

#### ○ 地域型保育事業

保育園より少人数の単位で、保育が必要な3歳未満の子どもを保育する事業です。小規模保育、事業所内保育があります。

#### ○ 認可外保育施設

児童福祉法に基づく県知事などの認可を受けていない保育施設です。児童を保育するのにふさわしい内容や環境を確保しているかを確認するため、原則として県が年1回以上の立入調査を実施しており、市も同行しています。

また、企業が従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供するために設置し、国が助成を行う企業主導型保育事業があります。従業員の子どものほかの子どもを受け入れる地域枠を設置することができます。（確保方策においては、県の立入調査結果により問題がないと判断された施設の地域枠分とします。）

② 地域子ども・子育て支援事業

子ども・子育て支援法上の事業名	本市事業
(1) 利用者支援事業	◇ 身近な相談窓口の整備・運営 (こども・若者相談センター、ひと・ほんの庭 にこっと、幼稚園、保育園、認定こども園等)
(2) 地域子育て支援拠点事業	◇ 子育て支援センター運営事業
(3) 妊婦健康診査	◇ 妊婦健康診査
(4) 乳児家庭全戸訪問事業	◇ こんにちは赤ちゃん訪問事業
(5) 養育支援訪問事業	◇ 養育支援訪問員等による支援
(6) 子育て短期支援事業	◇ ショートステイ事業
(7) 子育て援助活動支援事業	◇ ファミリー・サポート・センター事業
(8) 一時預かり事業	◇ 保育園・認定こども園等での一時預かり事業 ◇ 幼稚園での預かり保育事業
(9) 延長保育事業	◇ 保育園・認定こども園での延長保育事業
(10) 病児保育事業	◇ 病後児保育事業
(11) 放課後児童健全育成事業	◇ 放課後児童クラブの整備・運営

\* 地域子ども・子育て支援事業のうち「実費徴収に係る補足給付を行う事業」、「多様な事業者の参入促進・能力活用事業」は、量の見込み等を作成する事業からは対象外となっています。